

目 次

| | |
|------------------------------|------|
| (1) 団体の理念・姿勢について | P 2 |
| (2) 団体の安定性について | P 6 |
| (3) 団体の継続性について | P 8 |
| (4) 団体運営の透明性・公平性 | P 9 |
| (5) 団体運営における法令等の遵守状況 | P 11 |
| (6) 運営実績 | P 13 |
| (7) 効率・効果的運営への取組状況 | P 19 |
| (8) 受託への熱意・意欲 | P 29 |
| (9) 事業運営への独創性 | P 36 |
| (10) 施設管理の安全性への配慮 | P 39 |
| (11) 利用者への対応状況 | P 45 |
| (12) 社員等の育成状況 | P 48 |
| (13) 個人情報保護対策状況 | P 51 |
| (14) 自主事業などの提案 | P 52 |
| (15) 障害者の雇用状況 | P 56 |
| (16) 高齢者の雇用状況 | P 57 |
| (17) 管理運営に必要な提案金額 | P 58 |
| (18) 環境への配慮 | P 59 |
| (19) 地域雇用の状況 | P 61 |
| (20) 災害・防犯時の対応 | P 62 |
| (21) 食育について | P 67 |
| (22) 児童への対応と子どもの権利の尊重について | P 70 |
| (23) 市が行っている関係事業及び地域との連携について | P 75 |

国分寺市立もとまち児童館及び第一・第二東元町学童保育所指定管理
に関する事業計画及び企画提案書

平成29年 8月 31日

団体名称 特定非営利活動法人ワーカーズコープ

(1) 団体の理念・姿勢について

*施設の設置目的に対する理解や公共性・平等利用への考え方

1、運営の理念

基 本 理 念

- ・私たちは、働く人々、市民がみんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合って、人と地域に役立つ仕事をおこす協同組合です。
- ・私たちは、利用者との協同、地域との協同、働く者どうしの協同を大切にします。

2、指定管理者としての運営方針

子育て支援の重要な拠点としての役割を担い、児童の健全な育成を図るため、遊びや生活の場を提供するためのものです。以下の点を重視して、公の施設として市民に対して平等かつ開かれた児童館・学童保育所運営を進めていきます。

(1) 公の事業を担うものとして大切にすること

- ①国分寺市民の子育て支援向上を担い、国分寺市の財産を大切に活用し、業務を遂行し、責任を全うします。
- ②事業計画を定期的に振り返り、その都度到達点を確認しながら、事業計画を実施出来るよう努めます。
- ③安定性のある施設運営を進めていきます。

(2) 利用者・地域を大切にすること

- ①利用者の不安や悩みを軽減し、誠実な対応を行ないます。
- ②単にサービスの提供者ではなく、共に運営を創っていく関係を大切にします。
- ③子育て施設の運営を通じて、地域のニーズを捉え、必要な取り組みを深めます。

(3) 公の事業を担うものとして大切にすること

- ①利用者が主体性をもって活動できる環境を整備します。
- ②快適な環境整備、維持管理を進めます。
- ③危機管理体制を充実し、安心・安全の環境作りに取り組みます。

（４）働く者がやりがいといきがいをもって前進できること

- ①労働環境を整備し、働きやすい、働き続けたいという職場風土を形成します。
- ②人材育成、研修の充実を図ります。
- ③情報の共有と話し合いを密に行ないます。

（５）先駆的な実践のために、関係機関との協同により、新しい子育て支援の創造を目指す。

- ①これまでの実践・実績を大切にしていきます。
- ②指定管理者（ワークスコープ）として、地域の特性を捉えた運営を行います。
- ③市民や関係機関と協力して、まち作りに貢献する子育て支援を目指します。

（６）施設同士の連携した運営を目指す。

- ①相互の交流や情報交換、より地域に根ざした一体的な運営を行ないます。
- ②職員の交流により、効果的効率的な運営を実現します。
- ③地域の特性や、子どもの様子を広い視野で捉え、包括的な運営を目指します。

3、施設の公共性・平等性についての考え方

児童館・学童保育所が、市民にとって平等の資源として位置づけられ、利用する全ての市民が施設を使用でき、一定のルールの上で公平性を保って活動できるよう、運営者として管理・整備を行ない、公共性・平等性を保ちつつ発展させていきます。公共施設の運営姿勢として、次の点を大切にしていきます。

| 市民主体の運営を目指します | 関かれた施設を目指します |
|---|---|
| ①利用者・市民を公共サービスを担う主体者として 位置づけ、一緒に作る姿勢を大切にすること ②市民の参加を広げ、地域の再生やまちづくりの 拠点としての役割を果たすこと | ①市民との信頼関係作り・雰囲気作り ②施設・設備への配慮 ③積極的な情報発信・施設のルールの周知 ④近隣住民への配慮 ⑤防犯・防災・不審者対策を講じる |

4、子育て支援についての理念・基本方針

「国分寺市子育て・子育ていきいき計画」の基本理念「一人ひとりを大切に みんながみんなの中で心豊かに育ちあい、支え合う」を重要な視点において、以下の3つの基本方針を定めます。

(1) 子どもたちの成長・・・育ち合う

子どもが自主的に取り組むことを褒めたり、励ましたりすることで創造性を育み、子ども同士の話し合いで解決する力をつけさせ、社会性が高まるように支援します。

(2) 子育てをする家庭への支援・・・支え合う

保護者へ施設の情報を提供しながら、魅力ある行事、親子行事等を行っていきます。また、職員や他の利用する保護者とも相談しやすい環境作りを心掛け、安心して子育てができるように支援します。働く親の多様なニーズに応えて、仕事と子育ての両立を応援します。

(3) 子育てを大切にするまちづくり・・・広げ合う

児童館・学童保育所の運営をきっかけとして、地域のまちづくりを地域の人たちと一緒に作っていきます。様々な行事や講座などを通して、子育て支援に関心のある地域の方との出会いを広げます。

5、児童館の運営方針

(1) 児童館についての基本的な考え方

「国分寺市子育て・子育ていきいき計画」にもあるように、子どもに健全な遊びを提供して、健康増進、情緒を豊かにすることを図る「居場所」として、地域の身近なところで、気軽に親子の交流や子育て相談ができる場としての児童館の充実が求められています。

(2) 基本方針

子どもたちが、自分の「居場所」としてやってくる、
あそびや文化、人との出会いを通して、地域の中で
社会性や自主性を育める児童館を目指します

<基本方針>

<児童館の活動の中で大切にしたいこと>

| | |
|----------------|--------------------------------------|
| ①全ての利用者への働きかけ | ①来たい、居たいと思える居場所作り 保護者が相談・交流できる場所 |
| ②発達段階・個人差への理解 | ②いじめ及び虐待防止・予防の啓発 |
| ③関係機関・地域との連携 | ③子どもたちが主体性を発揮し、遊ぶ楽しさ・ 喜び・発見ができる場所 |
| ④障がいのある子どもへの支援 | ④児童館に来ることが出来ない子どもたちへの 配慮 |
| ⑤困難事例への対応 | ⑤地域・多世代に渡る交流 |

6、学童保育所の運営指針

(1) 学童保育所についての基本的な考え方

学童保育所は、子どもたちに「安全で安心感のある生活」を保障すること、学童保育所に通うことが楽しみになるような生活を作る場所です。一人ひとりの子どもたちの成長を育むことを中心に置きながら、子育てを応援する「子育て支援」と、保護者や地域の方々とともに子どもを見守り、その成長を支え合えるような、「地域の再生・まちづくり」の両面から、地域社会に根ざした学童保育所を目指します。

(2) 基本方針

・子どもが喜んで通い、あそびやささまざまな活動を通して、
生き生きと過ごせ、安心できる学童保育所
・一人ひとりの子どもの自主性、自発性を尊重する
学童保育所

<基本方針>

<学童保育所の生活で大切にしたいこと>

| | |
|------------------|-------------------------|
| ①子ども一人ひとりへの支援 | ①子どもの心の居場所作り |
| ②子ども同士の間関係形成への支援 | ②生活習慣、自立への手助け |
| ③保護者への支援 | ③自主性、社会性が築ける場 |
| ④学校、関係機関との連携 | ④思っていることが言え、受け止め合える関係作り |
| ⑤地域との関わり | ⑤宿題などの学びの環境作り |
| ⑥情報の提供 | ⑥成長・発達・個人差への配慮 |

7、2施設の今後の運営で大切にしていくこと

(1) 2施設の連携した運営を目指します。

もとまち児童館・東元町学童保育所の連携を大切に、行事の合同開催や子どもたちの交流、職員の交換研修を行っていきます。児童館・学童保育所それぞれの環境を踏まえて、利用する子どもたちの活動範囲を狭めずに、他施設の活動をお互いに取り入れていきます。

(2) 職員の交流により、効果的効率的な運営を実現します。

職員の現場研修や行事などには、基本的な職員体制の上で臨機応変な人員配置を行い、活発な人材交流を図ります。

(3) 地域の特性や、子どもの様子を広い視野で捉え、包括的な運営を目指します。

毎日の子どもの様子をしっかりと見つめることはもちろんですが、視野を広く持ち、家族背景や国分寺の地域性、地域で抱えている課題などを踏まえ、町全体で子育てを支えられるような取り組みを積極的に行っていきます。

(2) 団体の安定性について

*団体等の経営状況の安定性

2001年9月に「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」は、「労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団」を母体に、自治体から、パートナーシップを組む上で、NPO法人を作ったかどうかとのアドバイスもあり設立されました。設立母体である「労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会センター事業団」が全面的に支えています。どちらも「働く市民が主人公となって、人や地域に役立つ仕事おこしを進める協同組合」の理念を共有しています。

センター事業団から、資金・人材・事業のノウハウなどの支援を受けて、ワーカーズコープは、元気高齢者作りや子育て支援を中心として、地域に密着した様々な事業へ挑戦することを進めてきました。

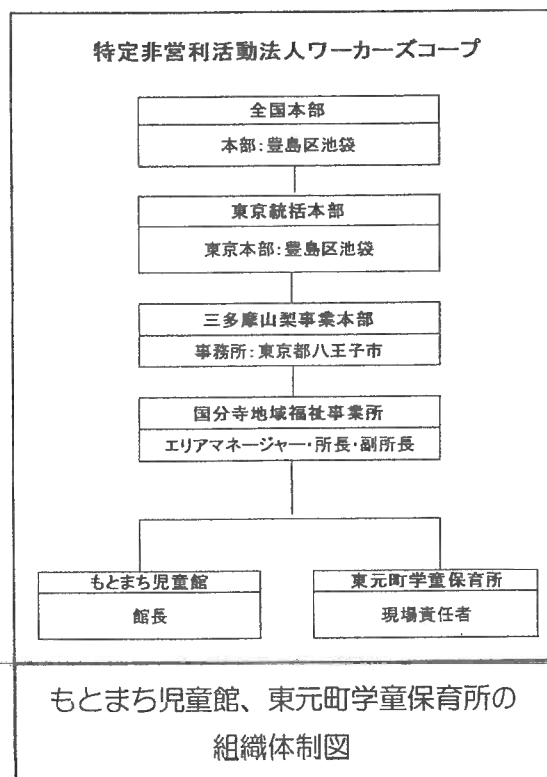
1、当団体の財務状況

当法人は、平成28年3月期末で15期目の決算を終えました。事業活動は、第2期目から開始し、第4期目（平成16年4月期）以降は黒字決算ができ、平成28年3月期で純資産（繰越利益剰余金）は469,765千円となり経営的にも安定してきています。

私たちは「全組合員経営」を経営理念に掲げ、1人ひとりの働く者自身が労働者であり、出資者であり、経営者である協同労働の協同組合（労働者協同組合）として運営をしています。人件費や経費の使い方等を働く者同士で討議をしながら、今まで当法人は安定的に運営をしてきています。

2、法人支援体制

当法人は全国本部・東京統括本部を豊島区に設置し、多摩地域を管轄する三多摩山梨事業本部の事務所を八王子市に構えています。全国本部が多種多様な実践を広く示し、そのバックアップのもとに三多摩山梨事業本部が管理部門・間接的な支援体制を整え、現場を支える多摩地域の支部機能を果たしています。国分寺においては、エリアマネージャー、所長、副所長、現場責任者体制を構築し、安定して施設運営が出来るよう、十分な組織体制・運営を整備しています。



3、全国組織の強みを活かして

ワーカーズコープは、全国組織であることが大きな強みです。全国各地の実践をわが地域の力にし、そこから学び、発展させることができます。三多摩エリアでも、子育て分野をはじめ、地域福祉、清掃分野、就労支援など協力し合い「新しい公共」の場への挑戦をしています。



＜三多摩事業本部 事業案内図＞

4、経営方針

～ 経営理念 「社会連帯経営」～

公共サービスの運営を通じて、利用者、地域との接点が大きく広がる中で、関わる人たちの直接参加を広げ、利用者、市民、働く者同士の協同の関係を大切に築きながら、共にその事業を発展させていく「社会連帯経営」を目指します。全ての人が地域課題に関わりを持ち、連帯性を高めながら、地域を再生する当事者として参加する経営です。

＜経営理念＞

社会連帯経営

＜運営方針＞

| | | | | |
|-----|-------|-----|------|------|
| ①参加 | ②話し合い | ③共生 | ④柔軟性 | ⑤専門性 |
|-----|-------|-----|------|------|

＜経営の工夫＞

| | |
|-----------------|---|
| ①事業の質の確保 | 全国組織として、主たる本部は東京都豊島区池袋に所在していて、児童館・学童保育所の質の維持と向上、職員への学習・研修を目的として「事業推進部」があります |
| ②経営の効率性 | 一定の給与水準を保持することを前提に予算計画を立てます。また、子どもたちにかかるおやつ代や行事費などの経費は国分寺市の仕様の通りに予算を実行していきます。 |
| ③経営に関して話し合う日の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の収支状況を全職員と共有します。 ・ 収支計画に照らして課題を明確にして、次月の目標を立てます。 |
| ④経営報告 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 当月予算と実績の対比報告書を毎月10日までに提出します。学童保育所の経営収支を毎月集計して、予算対比評価を行い、報告書として本部へ提出します。 ・ 会計月報を毎月5日までに提出します。「入出金伝票、現金出納帳、預貯金通帳コピー、請求書等」を回収して、事業本部で集約、チェック、処理を行います。 |
| ⑤経営事故を事前に防ぐ | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童館・学童保育所の一つひとつの現場でも会計監査は毎年実施します。 ・ 法人全体でも第三者からの会計監査を受けています。 ・ 顧問弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、社会保険労務が経営全般を支援する体制があります。 |

(3) 団体の継続性について

*団体等の設立から何年経過しているか

母体であるセンター事業団は、設立30年を迎えています。特定非営利活動法人ワーカーズコープは15年を経過したところです。地域に必要な仕事を市民の方とともに作ってきた協同組合として、大きく広がっています。各種メディアや国民生活白書や子ども白書などにも取り上げられています。協同という新しい働き方が、社会に受け入れられつつあることを感じています。近年は子育て分野での活動が広がり、児童館や学童保育所、保育園、親子広場など子育て支援関連の実績を残しています。

1、当該法人の歴史

| | |
|-------|---|
| 2001年 | 特定非営利活動法人ワーカーズコープ設立。 |
| 2002年 | 連合会第23回総会において、協同労働の協同組合としての「新原則」が定められる。 |
| 2003年 | 足立区で学童保育室をスタート。子育て支援事業を本格的に開始。 |
| 2004年 | 「社会連帯委員会」設立総会。墨田区で初めて指定管理者として公共施設の管理・運営を担う。 |
| 2005年 | 板橋区で初めて公立保育園を運営。 |
| 2006年 | 「国民生活白書」でワーカーズコープが紹介される。 |
| 2007年 | 地域若者サポートステーションを新潟県新潟市・宮城県大崎市で受託。 |
| 2008年 | 「協同出資・協同経営で働く協同相合法（仮称）を考える議員連盟」が発足。 |
| 2009年 | 労協連30周年。 |
| 2010年 | 埼玉県より生活保護受給者の自立・就労支援事業「アスポート事業」を受託。 |
| 2011年 | 協同労働法制化の早期制定を求める地方議会意見書800議会を突破。 3.11東日本大震災を機に、宮城県仙台市に「東北復興本部」を開設。 |
| 2012年 | 全国で保護者と一括に取り組む放課後等デイサービス（障がい児の居場所）開設。 自治体から生保団弱者対策事業の受託が広がる。映画「ワーカーズ」公開。 |
| 2013年 | 兵庫県で自伐林業を開始。農、林業分野を通じた循環型地域づくりが始まる。 |
| 2014年 | 「協同労働の協同組合」の新原則が制定。広島市で「協同労働プラットフォーム」事業が始まる。 |
| 2015年 | 全国で子ども食堂の取り組みが広がる。 |

2、国分寺市内での事業運営の歴史

2007年 国分寺市第二光町学童保育所

2012年 国分寺市ひかり児童館・第一光町学童保育所、第二光町学童保育所、第三泉町学童保育所

2013年 国分寺市もとまち児童館、第一・第二東元町学童保育所

2014年 国分寺市東恋ヶ窪学童保育所、日吉町学童保育所、西恋ヶ窪学童保育所、福祉センター

2017年 民設民営学童保育所「国分寺駅北口和みっこクラブ」、放課後等デイサービス「すてっぷ」

(4) 団体運営の透明性・公平性

*進んで団体等の情報等を公表しているか

1、利用者アンケートと利用者協議会

児童館では年に4回利用者協議会を実施し、子どもたちや保護者、地域の方たちに直接意見を聞き、日々の運営にその声を反映させています。また利用者アンケートを毎年実施し、出された意見や要望については次年度の方針作りに活かし、実現に向けて全力で応えます。アンケート結果は集計し、国分寺市へ報告します。また、常時意見箱を設置し寄せられた意見と対応策を、施設内に掲示します。

学童保育所の運営、行事などの企画内容、職員について、今後の希望などのニーズを把握し、業務改善を行います。

例：①父親が参加しやすい行事や、乳幼児が過ごしやすい館内環境を整備して欲しい。

→利用者からのアンケートや、日常の会話の中で父親を参加させたいという意見が多く、その声を元に、「パパDAY」や「もとまちファミリーDAY」など父親の育児参加を促す行事を2か月に一度のペースで実施しています。

→利用者から乳幼児と小学生の棲み分けも希望が上がり、部屋の使い方を変える事で乳幼児親子のみが使える幼児室を確保しました。

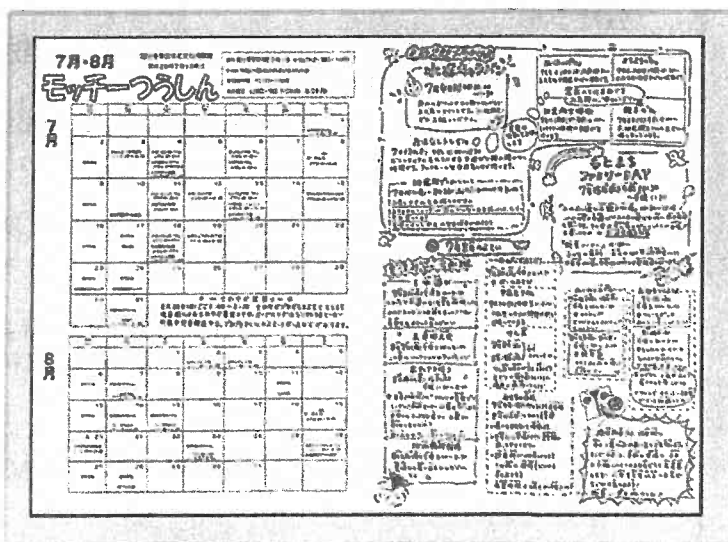
②学童保育所のおやつについて 「おやつは手作りのものが多いと良いです。」

→会議や行事準備・事務仕事の無い午前中で時間が取れる日に行うようにしました。職員のおやつ作りのレパートリーやスキルアップをしていき、週に一、二回は手作りのものを必ず出せるように努めてきました。

2、地域への情報発信

多くの地域の関係者、保護者の方が、児童館、学童保育所の状況をつかめるように、個人情報に留意をしながらもお便りの作成や情報発信をしていきます。

具体的には法人の基本的方針や指定管理者の仕組み、年間事業計画、年間事業報告、施設の利用方法や定期的事業、期間的事業、臨時事業、子育て支援情報、関連施設情報、国分寺市に関わる地域情報など利用者・市民に関わる情報について、積極的に発信します。



もとまち児童館のおたより

3、法人内相互監査の実施

法人では、内部監査の取り組みを実施しています。私たちの進める業務を、より客観的に把握する事を目標に、子育て支援施設の第三者評価項目に従い、総合評価を基本にした現場調査を行い分析・評価を各現場にフィードバックを行ないながら、客観的な視点を大切にした運営改善を目指します。

4、情報公開

私たちワーカーズコープは、情報公開規定に基づき、情報を公開しています。また、ホームページでも公開しています。したがって、国分寺市情報公開条例および、当法人が定めた下記「情報公開規定」にもとづき、公開の申出があった場合（書面にて申請）、閲覧を可能とします。

情報公開規定

（趣旨）

第1条 この規定は、特定非営利活動法人 ワーカーズコープ（以下「当法人」という。）が行う情報公開の実施について必要な事項を定めるものとする。

（対象文書）

第2条 情報公開の対象とする文書（以下「対象文書」という。）は当法人の次の各号に掲げる文書とする。

- （1）定款
- （2）役員名簿
- （3）業務報告書
- （4）貸借対照表
- （5）収支決算書
- （6）資産目録
- （7）損益計算書
- （8）事業計画書
- （9）議事録

（公開申出）

第3条 何人も、この規定に定めるところにより、当法人に対して対象文書の公開の申出（以下「公開申出」という。）をすることができる。

2 公開申出は、公開申出書（別記様式）を当法人に提出して行うものとする。

（公開の実施）

第4条 当法人は公開申出があったときは、速やかに次号の各号に定めるところにより、公開申出者に対し、公開申出に係る文書を公開するものとする。

- （1）公開の場所 当法人本部
- （2）公開の時間 当法人の休日以外の日の午前9時より午後5時まで

2 文書の公開は、文書の閲覧又は写しの交付により行うものとする。

（費用の負担）

第5条 前条2項の規定により文書の写しを受けるものは、その費用として、複写1枚につき10円を負担するものとする。

（補則）

第6条 この規定に定めるもののほか、この規定の実施に必要な事項は当法人が別に定める。

附則

この規定は、平成16年8月1日から施行する。

(5) 団体運営における法令等の遵守状況

*個人情報保護法、労働基準法等が遵守されているか

1 個人情報保護規定、並びに労働基準法の遵守について

国分寺市の「国分寺市個人情報保護条例」第13条の3に基づき、適正な管理を行ないます。※運用については(13)個人情報保護対策状況へ記載。

また、労働基準法に基づき、常勤者は週40時間前後の就労体系で勤務し、社会保険、雇用保険等に参加し、週20時間以上の勤務者についても、社会保険、雇用保険加入、その他労災保険、共済等の保険や労働基準法に基づき、就労半年後より有給休暇取得などを行なっています。非常勤者についても、労働基準法に基づき、社会保険加入や雇用保険加入の手続きを行ないながら運営しています。労働安全衛生法についても労働災害防止の観点から重視します。中でも労働者の安全と健康を確保するとともに快適な職場環境の形成と促進を促します。安全衛生責任者を本部に置き、産業医制度を確立し、定期的な現場指導、巡回を行います。

特定非営利活動法人ワーカーズコープ個人情報保護規定

(趣旨)

第1条 この規定は特定非営利活動法人 ワーカーズコープ（以下「当法人」という。）が行う個人情報保護の実施について必要な事項を定めるものとする。

(個人情報の取扱い)

第2条 当法人の活動の種類に係る対象者または利用者個人に関する情報（以下「個人情報」という。）の取扱いについて、その管理責任者を設置し、適切な管理を行う。

(個人情報の収集)

第3条 利用者から個人情報を収集する場合は、その収集の目的、利用者に対する当法人の窓口を明確にした上で、必要な範囲の個人情報を収集する。

(個人情報の第三者への提供・開示)

第4条 当法人は、利用者より収集した個人情報を適切に管理し、利用者の承諾を得た範囲以外の第三者に提供、開示等は一切行わない。

（但し、(1)法令の規定による場合、(2)利用者又は公衆の生命、健康、財産などの重大な利益を保護するために必要な場合を除く。）

(個人情報の漏洩や再提供)

第5条 当法人が、第4条における利用者の承諾に基づき、業務を遂行するために個人情報を提供する関係組織には、利用者の個人情報を漏洩や再提供しないよう、適切な管理の実施を要請する。

(個人情報の照会・修正・削除)

第6条 利用者が、利用者の個人情報の照会、誤記等があった場合の修正、削除等を希望する場合には、当法人情報管理責任者が、合理的な範囲ですみやかに対応する。

附則

この規定は、平成16年8月1日から施行する。

② 福祉施設にかかわる法令等

以下の法令等を児童館・学童保育所に配置します。また「国分寺市子育て・子育ていきいき計画」をもとに、研修・学習会を通じて職員が内容を理解し、実行に努めます。その他、国分寺市子どもいじめ虐待防止条例についても理解し、実行します。

1、社会福祉六法

- ・児童福祉法 ・身体障害者福祉法 ・生活保護法 ・知的障害者福祉法 ・老人福祉法
- ・母子及び父子並びに寡婦福祉法

2、子どもの権利に関する条約

3、児童憲章

4、国分寺市子どもいじめ虐待防止条例

5、国分寺市地域福祉計画

ひかり児童館及びもとまち児童館館長が地域福祉推進協議会の推進委員として参加させて頂いています。ワークスコープが取り組む自主的な活動目標として、「ひかりごはんフェス」「もとまちファミリーDAY」の実施を掲げています。

6、国分寺市子育て・子育ていきいき計画

「国分寺市子育て・子育ていきいき計画」にある、基本理念「一人ひとりを大切に みんながみんなの中で心豊かに 育ち合い、支え合う」を大切に、児童館・学童保育所での取り組みを深め、子育て・子育てのしやすいまちづくりに寄与します

(6) 運営実績

*同様な施設での運営実績

1 類似施設の管理運営実績

○ 法人の子育て支援の施設数等（2017年4月現在）

| | 【全国】 | 【三多摩地域】 |
|----------------------------|-------|---------|
| ・学童クラブ・・・・・・・・・・・・・・・・ | 154施設 | 28施設 |
| ・児童館・・・・・・・・・・・・・・・・ | 63施設 | 12施設 |
| ・保育園・・・・・・・・・・・・・・・・ | 30施設 | 4施設 |
| ・放課後事業・・・・・・・・・・・・・・・・ | 30施設 | 2施設 |
| ・子ども家庭支援センター・・・・・・・・ | 8施設 | |
| ・高齢者・子育て・コミュニティー複合施設・・・・・・ | 2施設 | |
| ・親子ひろば・・・・・・・・・・・・・・・・ | 60施設 | |
| 合計 | 347施設 | 46施設 |

三多摩地域では以下の通り運営しています。

町田市・小平市・国分寺市・福生市・八王子市・立川市・日野市

①児童館・・・・・・・12館

②学童保育所・・・・・・・28か所

別紙：「公共実績一覧」添付しています

2 契約書の写し

<国分寺市>

| | |
|---|--|
| <p style="text-align: center;">国分寺市立ひかり児童館 第一・第二光町児童保育所及び 第三京町児童保育所施設の管理に関する協定書</p> <p>国分寺市（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人ワークスコープ（以下「乙」という。）とは、次のとおり、国分寺市立児童館条例（平成19年条例第5号、以下「児童館条例」という。）及び国分寺市立児童館管理規則（平成19年条例第31号、以下「管理規則」という。）により設置された国分寺市立ひかり児童館、第一・第二光町児童保育所及び第三京町児童保育所施設（以下「本施設」という。）の管理運営について、国分寺市と乙との協定の締結の手続きに関する事項（平成17年条例第31号、以下「平成条例」という。）第7条（協定の締結）の規定に基づき、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>（目的） 第1条 本協定は、甲と乙が相互に協力し、本施設を適正かつ円滑に管理するために必要な事項を定めるものとする。</p> <p>（協定管理費の徴収の要否） 第2条 甲及び乙は、本施設の管理に際し、甲が協定管理費の徴収を行うことの要否が児童館事務たる乙の能力を活用しつつ本施設の利用者の利便を向上させ、もって地域福祉の向上の増進を図ることにあることを認識する。</p> <p>（公共性の尊重） 第3条 乙は、本施設の設置目的、協定管理費の徴収の要否及び施設管理費の行う管理業務（以下「本業務」という。）の実施に当たって定められる公共性を十分に認識し、その業務を営むものとする。</p> <p>2 甲は、本協定が児童館事務等によって支拂されることを十分に理解し、何等な立派に立ってその施設を管理するものとする。</p> <p>（児童等の遵守等） 第4条 甲及び乙は、法令及び規則を遵守するとともに、互いに協力し協力を重ね、本協定を誠実に履行しなければならない。</p> <p>2 乙は、国分寺市立児童館条例（平成13年条例第31号）第27条（市が行う業務等に関する遵守事項）に規定する法人等に該当する場合には、同条に規定する事項を遵守するものとする。</p> <p>3 乙は、国分寺市立児童館条例（平成7年条例第31号）の定めるところに従い、本協定の</p> | <p>（協定についての協定） 第31条 本協定の各条項等の解釈について疑義を生じたときは本協定に特別の定めのない事項については、甲と乙の協議の上、これを定めるものとする。</p> <p>（管理費の徴収） 第32条 本協定に関する料金は、東京都地方税等金庫第一号の管理費納付書とする。</p> <p>本協定を結ぶため、本書を2通作成し、甲、乙がそれぞれ記名押印の上、各1通を保有する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>甲 所在地 国分寺市戸倉一丁目6番地1 名称 国分寺市 代表者 国分寺市長 井 野 芳</p> <p>乙（協定管理費） 所在地 東京都豊島区池袋三丁目1番2号、株式会社ビルド 名称 特定非営利活動法人 ワークスコープ 代表者 代表理事 藤 田 浩</p> |
|---|--|

| | |
|--|--|
| <p style="text-align: center;">国分寺市立第一・第二京町児童保育所、国分寺市立吉町児童保育所及び国分寺市立京町児童館管理規則の管理に関する協定書</p> <p>国分寺市（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人ワークスコープ（以下「乙」という。）とは、国分寺市立児童館条例（平成19年条例第34号、以下「児童館条例」という。）により設置された国分寺市立第一・第二京町児童保育所、国分寺市立京町児童館及び国分寺市立児童館管理規則（以下「本協定」という。）の管理運営について、国分寺市と乙との協定の締結の手続きに関する事項（平成17年条例第31号、以下「平成条例」という。）第7条（協定の締結）の規定に基づき、次のとおり協定（以下「本協定」という。）を締結する。</p> <p style="text-align: center;">第1章 総則</p> <p>（目的） 第1条 本協定は、甲と乙が相互に協力し、本協定を適正かつ円滑に管理するために必要な事項を定めるものとする。</p> <p>（協定管理費の徴収の要否） 第2条 甲及び乙は、本施設の管理に際し、甲が協定管理費の徴収を行うことの要否が児童館事務たる乙の能力を活用しつつ本施設の利用者の利便を向上させ、もって児童館第一号の増進を図ることにあることを認識する。</p> <p>（公共性の尊重） 第3条 乙は、本施設の設置目的、協定管理費の徴収の要否及び施設管理費の行う管理業務（以下「本業務」という。）の実施に当たって定められる公共性を十分に認識し、その業務を営むものとする。</p> <p>2 甲は、本協定が児童館事務等によって支拂されることを十分に理解し、何等な立派に立ってその施設を管理するものとする。</p> <p>（法令等の遵守等） 第4条 甲及び乙は、法令及び規則を遵守するとともに、互いに協力し協力を重ね、本協定を誠実に履行しなければならない。</p> <p>2 乙は、国分寺市立児童館条例（平成13年条例第31号）第27条（市が行う業務等に関する遵守事項）に規定する法人等に該当する場合には、同条に規定する事項を遵守するものとする。</p> <p>3 乙は、国分寺市立児童館条例（平成7年条例第31号）の定めるところに従い、本協定の</p> | <p>（請求、通知等の形式その他の事項） 第46条 本協定に関する甲乙間の請求、通知、甲出、報告、承諾及び解除は、本協定に特別の定めがある場合は除き、書面により行われなければならない。</p> <p>2 本協定の履行に際して甲乙間で用いる書面は、日本語とする。</p> <p>3 本協定の履行に際して甲乙間で用いる書面は、本協定に特別の定めがある場合は除き、計数（平成4年法律第31号）の定めるところによる。</p> <p>（協定の変更） 第47条 本協定に際し、本協定の前提条件等が内容が変更したとき又は特別の事情が生じたときは、甲と乙の協議の上、本協定の協定を変更することができるものとする。</p> <p>（協定の解除） 第48条 甲が本協定の履行に基づき事業の受益、通知若しくは立会いを行い、又は説明若しくは報告を求めたことをもって、甲が乙の責任において行うべき業務の本協定又は一部について責任を負担するものと解してはならない。</p> <p>（協定についての協定） 第49条 本協定の各条項等の解釈について疑義を生じたときは本協定に特別の定めのない事項については、甲と乙の協議の上、これを定めるものとする。</p> <p>（管理費の徴収） 第50条 本協定に関する料金は、東京都地方税等金庫第一号の管理費納付書とする。</p> <p>本協定を結ぶため、本書を2通作成し、甲、乙がそれぞれ記名押印の上、各1通を保有する。</p> <p>平成25年3月17日</p> <p>甲 所在地 国分寺市戸倉一丁目6番地1 名称 国分寺市 代表者 国分寺市長 井 野 芳</p> <p>乙（協定管理費） 所在地 東京都豊島区池袋三丁目1番2号、株式会社ビルド 名称 特定非営利活動法人 ワークスコープ 代表者 代表理事 藤 田 浩</p> |
|--|--|

<福生市>

児童館等施設の管理運営に関する基本協定書

福生市（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人ワーカーズコープ（以下「乙」という。）とは、福生市公の施設等の管理運営の手段等に関する条例（平成17年条例第16号。以下「条例」という。）に基づき、次のとおり甲が設置する児童館及び児童館等施設を利用して実施する児童クラブ事業並びに併置する地域会館（以下「児童館等施設」という。）の管理運営に係る基本協定（以下「本協定」という。）を締結する。

目次

- 第1章 総則（第1条―第7条）
- 第2章 本協定の範囲と実施条件（第8条―第11条）
- 第3章 本協定の実施（第12条―第20条）
- 第4章 物品等の扱い（第21条―第23条）
- 第5章 施設費に係る甲の負担事項（第24条―第25条）
- 第6章 指定管理委託料及び使用料等（第26条―第30条）
- 第7章 損害賠償及び不可抗力（第31条―第35条）
- 第8章 指定期間の満了（第37条―第39条）
- 第9章 指定期間満了以前の指定の取扱い（第40条―第43条）
- 第10章 その他（第44条―第45条）

第1章 総則

（本協定の目的）

第1条 本協定は、甲と乙が相互に協力し、児童館等施設を適正かつ円滑に管理運営するために必要な基本事項を定めることを目的とする。

（協定の期間）

第2条 本協定の期間は、平成29年4月1日から平成34年3月31日までとする。
（指定管理者の協定の意義）

この協定の締結を促すため、甲と乙とは、本書を2通作成し、それぞれ宛名押印の上、各1通の1通を保有する。

平成29年4月1日

甲（地方公共団体）

所在地 福生市本町5番地

名称 福生市

上記代表者 福生市長 加藤 育男

乙（指定管理者）

所在地 東京都豊島区東池袋1-44-3

施設 I S P タビル

名称 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ

上記代表者 代表理事 藤田 健

<西東京市>

平成27年度における児童館等施設の管理に関する年度協定書

八王子市（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人 ワーカーズコープ（以下「乙」という。）とは、西東京市児童館等施設（以下「児童館等施設」という。）の管理運営の手段等に関する条例（平成27年条例第16号。以下「条例」という。）に基づき、平成27年度における児童館等施設の管理に関する基本協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（協定の期間）

第1条 本協定の期間は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までとする。

（指定管理料）

第2条 甲は、平成27年度の指定管理料を甲が支払うものとし、協定期間（年度）の終了後、第3条の規定に基づき算出を行う。
2 甲が支払う平成27年度の指定管理料は、金 円 とし、別添「管理費の算出方法及び支払方法」のとおり分割して支払う。
3 甲は、乙から適正な請求があったときは、所定の手続きに従って30日以内に指定管理料を支払うものとする。

（経費の負担）

第3条 乙は、協定期間（年度）の終了後、既払いを受けた指定管理料の使途を明らかにした実績報告書を作成し、速やかに甲に提出しなければならない。
2 乙は、既払いを受けた指定管理料のうち、施設職員の人件費及び必要経費が生じた場合には、速やかに甲に返納しなければならない。

（施設の維持修繕等）

第4条 児童館等施設の大規模な改修、改修若しくは修繕（以下「修繕等」という。）又は新設、増築若しくは修繕に要する費用は、甲の財政に限り負担して甲が負担するものとする。
2 1件あたりの費用が50万円以下の修繕等については、甲の承認を受けて、甲が支払う指定管理料の範囲内で行うものとする。ただし、50万円以下の修繕等及び甲が提出した年度事業計画書で予定した修繕等については、甲の承認は不要とする。（甲が既に承認したものとみなす。）

3 乙が修繕又は増築等により施設等を毀損した場合は、原状回復に要する経費について、金額の多寡にかかわらず乙が負担するものとする。

（乙による物品の購入）

第5条 乙が、甲の支払う指定管理料によって購入できる物品（1件あたりの購入予定価格が5万円以上の物品）は、1件あたり50万円以下とする。
2 物品の購入については、甲の承認を必要とする。ただし、乙が甲に提出した年度事業計画書で予定した物品の購入については、甲の承認は不要とする。（甲が既に承認したものとみなす。）
3 乙は、物品を購入したときは、物品何個かに登録するとともに、購入した物品の品名、仕様、取得日、取得価格等を速やかに甲に報告するものとする。

（専門性を要する業務）

第6条 基本協定に定める甲に専門性を要する業務について、乙が業務の一部を第三者に実施させる場合、当該第三者は甲として十分その内容を納付する旨を甲に通知すること。
2 乙が業務の一部を第三者に実施させる場合において、乙が甲に提出した年度事業計画書で予定した業務については、甲の承認は不要とする。（甲が既に承認したものとみなす。）

（利用料金）

第7条 乙は、条例別表3に規定する利用料金の額に限り、利用者が甲を単位として利用した場合の利用料金の累計額が、当該利用区分の月または小学校の休学期間を単位とした利用の金額を超えた場合には、当該利用区分の月または小学校の休学期間を単位とした利用の金額を上限とするものとする。
2 乙は、児童館等施設の延長利用の利用者が、休学期間の8時から8時30分に小学校の休学期間を単位として利用した場合に限り、4月分の上限額を250円、3月分の上限額を250円として算出するものとする。

（年度事業計画）

第8条 乙は、甲に提出した年度事業計画書（事業計画、人員配置計画、収支計画、その他の計画）の次に掲げる内容を変更する必要がある場合は速やかに甲に協議を行うものとする。
（1）保育にかかわる職員等の勤務体制及び配置人員（恒常的なものに限る）
（2）恒常的な勤務体制の変更に伴う非常勤職員と非常勤職員の人員費負担

（経費等の決定）

第9条 本協定に定めのない事項及び本協定に照し経費が生じたときは、甲と乙は協議をもって協議を行い、これを決定するものとする。

本協定を促すため、本書を2通作成し、甲と乙がそれぞれ宛名押印の上、各1通を保有する。

平成27年4月1日

甲（八王子市）

所在地 八王子市本町三丁目34番1号

名称 八王子市

代表者 八王子市長 石森 孝之

乙（指定管理者）

所在地 豊島区東池袋1-44-3 施設 I S P タビル

名称 特定非営利活動法人 ワーカーズコープ

代表者 代表理事 藤田 健

<八王子市>

平成27年度における学童保育所の管理に関する年度協定書

八王子市（以下「甲」という。）と特定非営利活動法人 ワークスコープ（以下「乙」という。）は、上柚木小学児童保育所外3箇所（8クラブ）（以下「学童保育所」という。）の管理に関する協定書（以下「本協定」という。）に基づき、平成27年度における協定（以下「本協定」という。）を締結する。

（協定期間）

第1条 本協定の期間は、平成27年4月1日から平成28年3月31日までとする。

（協定管理料）

第2条 甲は、平成27年度の協定管理料を協定管理料として乙に支払うものとし、協定期間（年度）の終了後、第3条の規定に基づき清算を行う。

- 1 甲が協定管理料を平成27年度の協定管理料として、金 円とし、
- 2 別添「管理料に係る経費の支払明細書」とのり分割して支払う。
- 3 甲は、乙から適正な請求があったときは、所定の手続きに従って30日以内に協定管理料を支払うものとする。

（経費の清算）

第3条 乙は、協定期間（年度）の終了後、概算で支払を受けた協定管理料の使途を明らかにした実績報告書を、速やかに甲に提出しなければならない。

- 2 乙は、概算で支払を受けた協定管理料のうち、施設職員の人件費及びおやつ代に不要な経費が生じた場合には、速やかに甲に返納しなければならない。

（施設の維持修繕等）

第4条 学童保育所の大規模な改修、改築若しくは修繕（以下「修繕等」という。）又は新設、増設若しくは修繕に要する費用は、甲の財産に限り限りとして甲が負担するものとする。

- 2 1件当たりの金額が50万円以下の修繕等については、甲の承認を受けて、甲が支払う協定管理料の範囲内で行うものとする。ただし、50万円以下の修繕等及び乙が甲に提出した年度事業計画で予定した修繕等については、甲の承認は不要とする。（甲が既に承認したもののみをいう。）
- 3 乙が収容又は通園により施設等を破損した場合は、速速修復に要する経費について、金額の多寡にかかわらず乙が負担するものとする。

（乙による物品の購入）

第5条 乙が、甲の支払う協定管理料によって購入できる物品（1件当たりの購入予定金額が5万円以上の物品）は、1件あたり50万円以下とする。

- 2 物品の購入については、甲の承認を必要とする。ただし、乙が甲に提出した年度事業計画で予定した物品の購入については、甲の承認は不要とする。（甲が既に承認したもののみをいう。）
- 3 乙は、物品を購入したときは、物品台帳に確実に記録するとともに、購入した物品の品名、仕番、取得日、取得価格等を速やかに甲に報告するものとする。

（専門性を要する業務）

第6条 基本協定に定める特に専門性を要する業務について、乙が業務の一部を第三者に委託する場合、当該第三者には先行して十分その内容を検証する期間を要すること。

- 2 乙が業務の一部を第三者に委託する場合において、乙が甲に提出した年度事業計画で予定した業務については、甲の承認は不要とする。（甲が既に承認したもののみをいう。）

（利用料金）

第7条 乙は、別添別表3に規定する利用料金の徴収に際しては、利用者が日単位として利用した場合は利用料金の累計額が、当該利用区分の月または小学校の休校期間を単位とした利用の金額を上限に課するものとする。

- 2 乙は、学童保育所の延長保育の利用者が、存続の8時から8時30分に小学校の休校期間を単位として利用した場合に限り、4月分の上乗額を250円、3月分の上乗額を250円として徴収するものとする。

（年度事業計画）

第8条 乙は、甲に提出した年度事業計画書（事業計画、人員配置計画、収支計画、その他別添）の次に掲げる内容を変更する必要がある場合は速やかに甲に協議を行うものとする。

- (1) 保育にかかわる職員の数及び配置人数（恒常的なものに限る）
- (2) 恒常的な勤務体制の変更に伴う常勤職員と非常勤職員の人員配置

（監査等の決定）

第9条 本協定に定めのない事項及び本協定に抵触する疑念が生じたときは、甲と乙は協議をもって協議を行い、これを決定するものとする。

本協定を証するため、本書を2通作成し、甲と乙がそれぞれ署名押印の上、各1通を保有する。

平成27年4月1日

甲（八王子市）

所在地 八王子市元本郷町三丁目24番1号
名称 八王子市
代表者 八王子市長 石 塚 孝 治

乙（協定管理料）

所在地 豊島区東池袋1-4-3 池袋1SPタビル
名称 特定非営利活動法人 ワークスコープ
代表者 代表理事 藤 田 雄

27 協約書 第 50 号
平成 28 年 4 月 1 日

西東京市立学童保育所の運営に関する協定書（協約書）

西東京市を甲とし、特定非営利活動法人ワークスコープを乙として、甲乙間において、西東京市立学童保育所（平成13年西東京市条例第112号）第1条の規定により設置する西東京市立学童保育所（以下「保育所」という。）の運営に際し、次の事項により協定を締結する。

（条約事項）

第1条 甲は、乙に対し保育所の運営について、次の各号に掲げる業務を委託する。

- (1) 入園児童等（障害児を含む。）の生活指導、安全、保健衛生その他施設に関すること。
- (2) 施設、付帯設備の資金及び物品の管理に関すること。
- (3) 保育所の衛生管理、健康観察及びその他の施設管理に関すること。
- (4) 乙による保育所の運営に関する事務、その他西東京市が指定する事務に関すること。
- (5) 別添定めらるる事項に関すること。

第2条 第2号に規定する施設、付帯設備に係る修繕及び修繕等、1件の費用が10万円（消費税及び地方消費税を含む。）以上のものについては、甲が自己の費用と責任において実施するものとし、1件の費用が10万円（消費税及び地方消費税を含む。）未満のものについては、乙が自己の費用と責任において実施するものとする。甲又は乙において、費用と責任に係争が生じた場合は、甲乙協議するものとする。

（運用事項）

第3条 乙は、協定の条約事項の履行に当たり、法令、条例等の規定に従わなければならない。

第4条 乙は、本協定の運用に際し知り得た個人情報等を、他に開示し、又は提供してはならない。また、業務遂行の目的以外に使用してはならない。本協定の終了又は解除後も同様とする。

第5条 乙は、西東京市個人情報保護条例（平成13年西東京市条例第13号）及び西東京市特定個人情報保護条例（平成27年西東京市条例第43号）を遵守し、本協定の文書に開示した個人情報等の開示、漏洩及び不正利用の防止その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講ずるものとする。

（施設管理）

第6条 乙は、第1条の条約事項を実施するため、甲が指定する西東京市立保育所と同等以上の水準で、必要な施設を配置しなければならない。

（特別保育の実施）

負わない。

第7条 甲は、契約が終了により乙に損害が発生したときは、甲の責に依りてその損害を賠償しなければならない。

（解約の申し入れ）

第8条 乙は、乙がこの協約書を代行する者を指定できるとし、又は甲が代行する者を決定できる相対期間を設けられるときは、甲に対しこの協約書の解約を申し入れることができる。

（契約書の保管）

第9条 乙は、協約書の完了において、甲が管理物件の引渡しを指示するときは、この指示に従わなければならない。

（本協定の継続の判断）

第10条 乙は、本協定の継続の判断に合致し、かつ本協定の実施を妨げない範囲において、自己の責任と費用により、自主事業を実施できるものとする。

第11条 乙は、自主事業を実施する場合は、甲に対して事業計画を提出し、事前に甲の承認を受けなければならない。

第12条 甲と乙は、自主事業を実施するに当たって、別添自主事業の実施条件等定めることができるものとする。

（契約の期間）

第13条 本協定の期間は、平成29年4月1日から平成30年3月31日までとする。

（協定事項）

第14条 本協約及び本協約の運用について協議が生じたときは、又は本協定に定めのない事項に際しては、甲乙協議の上で定めるものとする。

本協約の証として、本書を2通作成し、甲と乙が協約書の署名押印の上、各1通を保有する。

平成28年4月1日

（甲）委託者 東京都西東京市西町五丁目6番13号

西東京市
代表者 市長 丸山 浩一

（乙）受託者

東京都豊島区東池袋1-4-3
協約書
特定非営利活動法人ワークスコープ
代表理事 藤 田 雄

| 收入市級別 | | |
|--------------------|-------------------|-------------------|
| 合計 | 1,000,000 | 2,000,000 |
| 1000000以上 | 100,000 | 200,000 |
| 1000000以下 | 900,000 | 1,800,000 |
| 500000以上 | 50,000 | 100,000 |
| 500000以下 | 450,000 | 900,000 |
| 100000以上 | 10,000 | 20,000 |
| 100000以下 | 440,000 | 880,000 |
| 50000以上 | 5,000 | 10,000 |
| 50000以下 | 435,000 | 870,000 |
| 10000以上 | 1,000 | 2,000 |
| 10000以下 | 434,000 | 868,000 |
| 5000以上 | 500 | 1,000 |
| 5000以下 | 429,000 | 863,000 |
| 1000以上 | 100 | 200 |
| 1000以下 | 428,000 | 861,000 |
| 500以上 | 50 | 100 |
| 500以下 | 427,500 | 860,500 |
| 100以上 | 10 | 20 |
| 100以下 | 427,400 | 860,400 |
| 50以上 | 5 | 10 |
| 50以下 | 427,350 | 860,350 |
| 10以上 | 1 | 2 |
| 10以下 | 427,340 | 860,340 |
| 5以上 | 0.5 | 1 |
| 5以下 | 427,335 | 860,335 |
| 1以上 | 0.1 | 0.2 |
| 1以下 | 427,325 | 860,325 |
| 0.5以上 | 0.05 | 0.1 |
| 0.5以下 | 427,315 | 860,315 |
| 0.1以上 | 0.01 | 0.02 |
| 0.1以下 | 427,305 | 860,305 |
| 0.05以上 | 0.005 | 0.01 |
| 0.05以下 | 427,295 | 860,295 |
| 0.01以上 | 0.001 | 0.002 |
| 0.01以下 | 427,285 | 860,285 |
| 0.005以上 | 0.0005 | 0.001 |
| 0.005以下 | 427,275 | 860,275 |
| 0.001以上 | 0.0001 | 0.0002 |
| 0.001以下 | 427,265 | 860,265 |
| 0.0005以上 | 0.00005 | 0.0001 |
| 0.0005以下 | 427,255 | 860,255 |
| 0.0001以上 | 0.00001 | 0.00002 |
| 0.0001以下 | 427,245 | 860,245 |
| 0.00005以上 | 0.000005 | 0.00001 |
| 0.00005以下 | 427,235 | 860,235 |
| 0.00001以上 | 0.000001 | 0.000002 |
| 0.00001以下 | 427,225 | 860,225 |
| 0.000005以上 | 0.0000005 | 0.000001 |
| 0.000005以下 | 427,215 | 860,215 |
| 0.000001以上 | 0.0000001 | 0.0000002 |
| 0.000001以下 | 427,205 | 860,205 |
| 0.0000005以上 | 0.00000005 | 0.0000001 |
| 0.0000005以下 | 427,195 | 860,195 |
| 0.0000001以上 | 0.00000001 | 0.00000002 |
| 0.0000001以下 | 427,185 | 860,185 |
| 0.00000005以上 | 0.000000005 | 0.00000001 |
| 0.00000005以下 | 427,175 | 860,175 |
| 0.00000001以上 | 0.000000001 | 0.000000002 |
| 0.00000001以下 | 427,165 | 860,165 |
| 0.000000005以上 | 0.0000000005 | 0.000000001 |
| 0.000000005以下 | 427,155 | 860,155 |
| 0.000000001以上 | 0.0000000001 | 0.0000000002 |
| 0.000000001以下 | 427,145 | 860,145 |
| 0.0000000005以上 | 0.00000000005 | 0.0000000001 |
| 0.0000000005以下 | 427,135 | 860,135 |
| 0.0000000001以上 | 0.00000000001 | 0.00000000002 |
| 0.0000000001以下 | 427,125 | 860,125 |
| 0.00000000005以上 | 0.000000000005 | 0.00000000001 |
| 0.00000000005以下 | 427,115 | 860,115 |
| 0.00000000001以上 | 0.000000000001 | 0.000000000002 |
| 0.00000000001以下 | 427,105 | 860,105 |
| 0.000000000005以上 | 0.0000000000005 | 0.000000000001 |
| 0.000000000005以下 | 427,095 | 860,095 |
| 0.000000000001以上 | 0.0000000000001 | 0.0000000000002 |
| 0.000000000001以下 | 427,085 | 860,085 |
| 0.0000000000005以上 | 0.00000000000005 | 0.0000000000001 |
| 0.0000000000005以下 | 427,075 | 860,075 |
| 0.0000000000001以上 | 0.00000000000001 | 0.00000000000002 |
| 0.0000000000001以下 | 427,065 | 860,065 |
| 0.00000000000005以上 | 0.000000000000005 | 0.00000000000001 |
| 0.00000000000005以下 | 427,055 | 860,055 |
| 0.00000000000001以上 | 0.000000000000001 | 0.000000000000002 |
| 0.00000000000001以下 | 427,045 | 860,045 |

委 託 契 約 書

仕樣書吟魂肥濟

委 託 名 日野市立しんめい児童館運営業務委託

委託場所 日野市立しんめい児童館

契約金額 26,626,320円

☐ 課税事業者（うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 1,972,320円）
☐ 免税事業者

契約期間 平成29年 4月 1日 から 平成30年 3月31日 まで

支払方法 契約後 4回払い

| | |
|-------|----|
| 契約保証金 | 免除 |
|-------|----|

上記の委託業務について、委託者日野市（以下「甲」という。）と受託者（以下「乙」という。）は、各々対等な立場における合意に基づいて、別添の条項によって公正な委託契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

本契約の信託について本書2通を作成し、当事者記名押印の上、各自1通を保有する。

平成29年 4月 1日

甲 東京都目黒市神明一丁目 1 2 番地の 3.

日 野 市

日野市長 大坪 冬蔵

乙 東京都豊島区東池袋1-44-3池袋ISPタワーズ

(特) ワーカーズユース

代表理事 藤田 徹

३१

子育て課

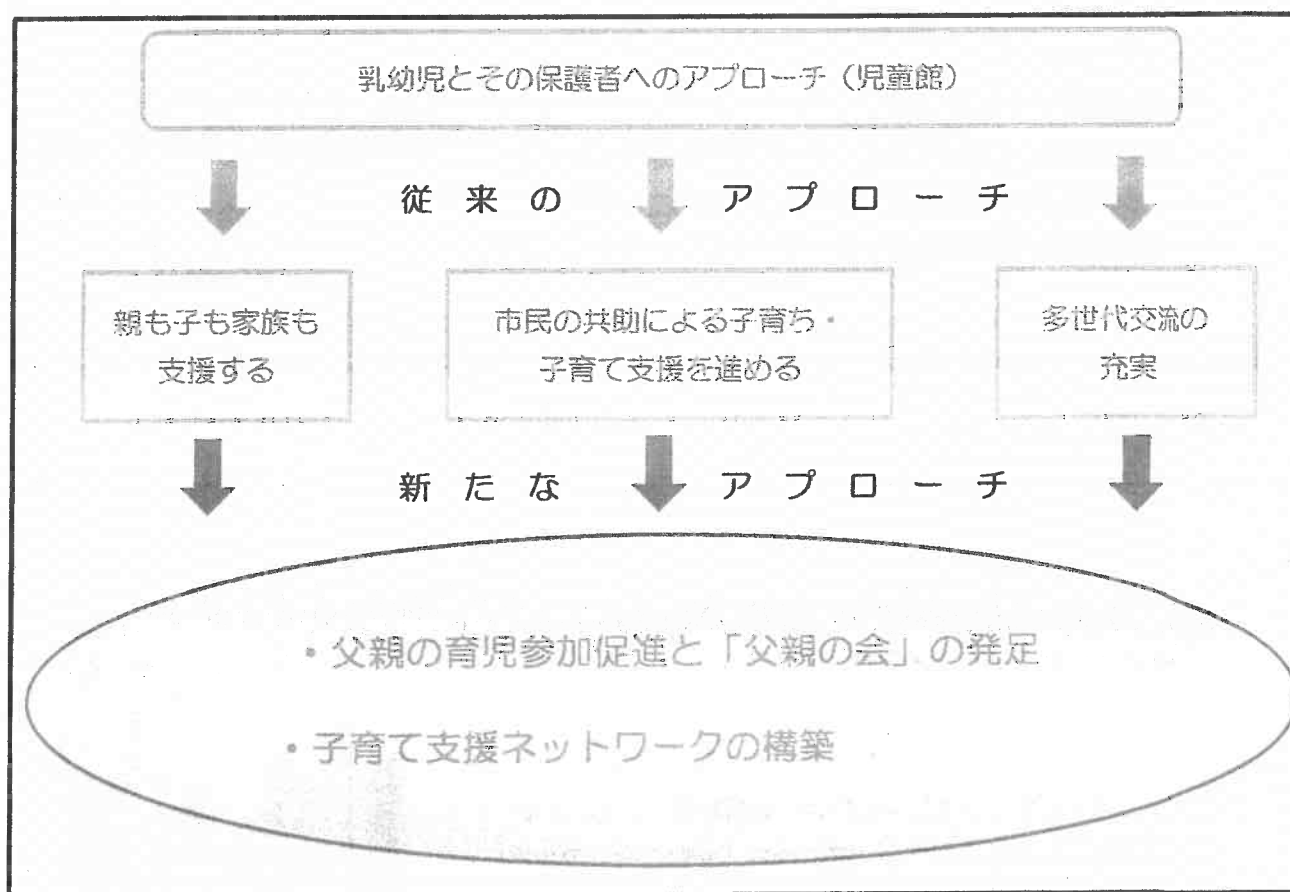
(7) 効率・効果的運営への取組状況

*施設利用の促進方策・創意工夫

1、児童館における効率、効果的運営

(1) 乳幼児とその保護者へのアプローチ（児童館）

指定管理の運営が始まってから、乳幼児向けの活動や父親の育児参加促進を目的とした活動、外部講師を招いた活動など新しい試みや、行事を増やしています。現在行われている乳幼児向け親子事業の継続はもちろんのこと、育児不安や発達についての心配ごとにも対応できるようなネットワーク作り、ならびに職員スキルの向上を図っていきます。また、子ども家庭支援センターや他の親子ひろば等の関係機関と連携を取りながら子どもの成長とその保護者を見守ります。



①従来のアプローチ

・親も子どもも家族も支援する

母親ひとりで悩んでいる方が多く、お子さんを連れて来館し、個人的に相談される方もいます。母親に対しての支援はもちろんですが、父親も参加できるような行事を通して家族全体が笑顔になれるような支援をしていきます。



・市民の共助による子育て・子育て支援を進める

乳幼児の年齢に応じたサークル作りの支援と、親子ひろばとしての空間、幼児やその保護者が、出会い、触れ合うきっかけを作る取り組みをします。

・多世代交流の充実

地域の高齢者の方に読み聞かせをして頂いたり、ハロウィンの際に隣の高齢者施設に協力してもらい、お菓子を渡して頂いたり、多世代交流を深めてきました。今後も従来通りの多世代交流を図りつつ、季節の行事を通して更なる交流を企画していきます。その他にもこれから大人になっていく中高生とのふれあいの場面なども作っていきたいと考えています。

②新たなアプローチ

・父親の育児参加促進と「父親の会」の発足にむけて

父親が気軽に子どもと児童館に来られるように、父親向けの行事を行って欲しいというご意見を頂き、「パパDAY」や、家族全員が遊びに来られる「もとまちファミリーDAY」を実施してきました。今後は父親向けの育児講座や、ふれあい遊びの講座などを随時実施し、そこから「父親の会」の発足に繋がるような事業展開をしていきます。



・子育て支援ネットワークの構築

育児不安や発達についての心配ごとにも対応できるように、子ども家庭支援センターや他の親子ひろば等の関係機関との連携を強めて行きます。

(2) 小学生へのアプローチ(児童館)

異年齢集団の遊びの創造、そこから生まれるルール作りや相手を知り自分を知る経験を大切にします。昨今失われつつある子どもたちの“三間(時間・空間・仲間)”の共有を常に念頭に置いた事業展開、子どもの自主性を発揮できる遊びや活動、ルール作り、児童館ならではの多様な体験作りを生み出します。また、現状に甘んじることなく、法人のノウハウを活かした新たな事業展開、地域とのつながりを活かした事業展開を創造していきます。

- ① 異年齢遊びの創造と体験が出来る事業展開
- ② 自主性を発揮できる事業展開
- ③ 地域との繋がりを体験できる事業展開



●小学校低学年(1～3年生を対象)

●みんなであそぼう●

異学年交流と三間(時間・空間・仲間)の共有をねらいとした行事で、小学生だけではなく、時には幼児や中学生と一緒に1つの遊びを楽しみます。普段は高学年に面倒を見てもらうことの多い低学年の子どもたちも、幼児のサポートに一生懸命になったり、率先して遊びのルールを説明してくれたり、児童館ならではの異学年交流の場になっています。「みんなであそぼう」に参加してくれた幼児が、卒園した後も継続して来館し、保護者の方からも「あの行事が楽しかったみたいで、小学生になっても遊びに行く!」と言っていたんです。」と嬉しい言葉を頂きました。

●小学校高学年(4～6年生を対象)

●自分たちで作上げた館内宿泊行事●

児童館の人気行事に「じどうかんに泊まろう」があります。館内に宿泊し、持ち込んだゲームや館内にある玩具で夜まで遊び、翌日の朝、帰宅するというものですが、2016年度から新たな試みを始めました。実施日の3か月前から実行委員会を組織し、自分たちで宿泊する時のルール、遊びの内容を決めるという取り組みです。参加した子どもたちは児童館の中心メンバーで、時として“自分たちの居場所”を強く主張しすぎて館のルールを守れなかったり職員から指導されたりする子どもたちだったのですが、実行委員会に参加したことで、自主性や協調性が育まれ、職員と一緒に行事を作り上げる事が出来ました。当日は、自分たちで決めたルールを守り、子どもだけでなく職員との時間の共有もでき、子どもたちとの関係性が深まった印象深い行事となりました。

●利用者協議会

もちートーク(利用者協議会)の中で、子どもたちに意見を聞き、話し合いをしています。本や玩具、行事への要望から、時計の設置のお願いなど、子どもたちからの意見は多種多様ですが、できる範囲で子どもたちの要望をかなえ、児童館運営に活かしています。

(3) 中高生へのアプローチ(児童館)

中高生世代へのアプローチ

- ①中高生の利用機会の拡大
- ②落ち着いた雰囲気的空間作りと交流の場
- ③スポーツ活動の充実
- ④中高生の学習支援
- ⑤中高生の多世代交流と地域活動の推進

①中高生の利用機会の拡大

中高生の利用機会の拡大を図るために、中高生の活動やイベントの企画作り、児童館を利用する中高生の声を集約し、実現させるなど多岐に渡り実施してきました。子ども達の希望や声を実現させるだけではなく、今後は中高生向け行事の拡大や様々な活動を通して中高生も成功体験を得ることができるよう事業展開をしていきます。

②落ち着いた雰囲気的空間作りと交流の場

自主学習・読書などができる空間を大切に、落ち着いた雰囲気を作ります。また、児童館での同年代の出会いを通じて自分の学校以外の人間関係を広げ、一人ひとりの価値観を広げます。

③スポーツ活動の充実

バスケットボール・卓球・室内ベースボール・ダンスなどのスポーツ活動を充実させます。

④中高生の学習支援

不登校や非行等で学校生活になじめない子どもたちを支援します。家庭や学校、関係機関と連携し、学習支援や生活支援等の一つの場として受け入れます。



⑤中高生の多世代交流と地域活動の推進

希望する中高生は、積極的に乳幼児の遊びやプログラムに参加して、交流を深めます。また、文化活動やダンスやスポーツなどを教えてくれる地域の方を講師として招きます。地域の人たちに向けた中高生活動の紹介や発表の場も広げていきます。

2、学童保育所における効率、効果的運営について

(1) これまでの保育における工夫とその成果

①メリハリある生活

市からの運営を引き継ぎ、継続してきたことは集団生活とメリハリのある生活を送ることでした。第一に職員との信頼関係を築くために、子どもたちと丁寧に関わり、話し合いを進めていきました。初めは、思いが伝わらない子どももいたのですが、自由時間の保障と集団で過ごす時間をどちらも確保し、メリハリをつけて学童保育所の生活が楽しめるように工夫をしていきました。

②食育の充実

おやつの内容は、マンネリ化する事の無いように他の施設との情報交換、合同の研修を実施することで内容の充実を図っています。常勤職員が週1～2回程度、季節を感じる果物や手作りおやつ
の提供、時には手作り昼食を用意しています。特に自主事業の「お弁当の日」は、子どもたちにお
弁当作りを経験してもらうことで、保護者への感謝の気持ちを感じてもらうこと、また保護者の方
の負担軽減の2点がねらいです。お弁当の日は子ども、保護者どちらからも好評で、今後も継続し
て、食べることへの感謝の気持ちを育てていきます。

③地域行事への積極的な関わり

地域の様々なお祭りや行事に参加することは地域を知り、愛する心を育める機会と考えます。学
童保育所でもファミリー運動会や図書館の読み聞かせ会・映写会、ふれあいまつり・もとまち、さ
わやか夏祭りなどに参加していきました。また、ファミリー運動会では職員が運営に関わる事で学
童保育所の関係者をはじめ、地域の方と関わる事が出来ています。その結果、子どもたちが地域
の活動に関心を持つ姿が増えたり、地域の人からお声掛けやご挨拶して頂いたりすることが増えて
いきました。

(2) 今後に向けた創意工夫

①学校、保護者の会、さわやかプラザもとまち、放課後子どもプランの方などと連携を図りながら一緒
に作り上げる行事を積極的に企画します。

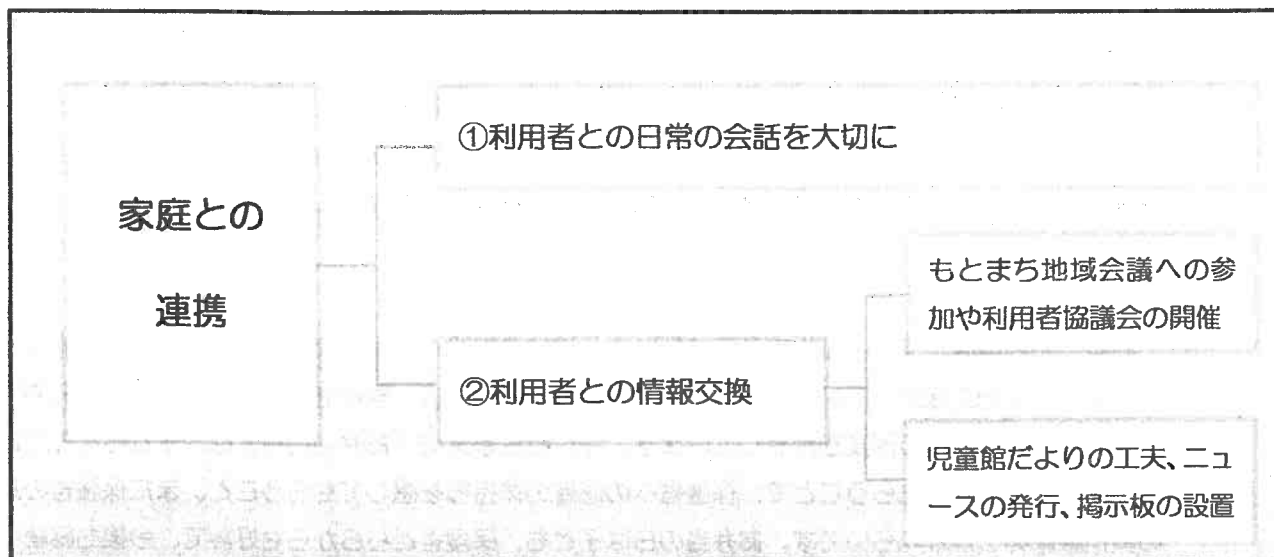
②過去5年間でも協力してきた、校庭キャンプをはじめ、保護者会主催の夕涼み会・卒所式、さわやか
プラザでの異世代交流企画、学童保育所企画の子どもプランの行事など、法人ならではの企画を子ど
もたちと考える実施してまいります。その為、日頃の保育の中で、子どもたちの思いや考えを聞き取り、
行事に反映していくことや人との関わり方や接し方などを指導してまいります。

③もとまち地域会議などで学童保育所の様子をお伝えし、学童保育所の行事などを知ってもらうこと
で、地域の方々にご協力頂けることが増えてきています。今後も関係者の方々との関わりを通して、
学童保育所の職員一同、地域の方と顔見知りになり、地域の力で子どもを見守り、支える関係を広
げていきます。

④「七夕飾り」「夏ならではの水遊び体験」「年末のお楽しみ会」「正月遊び・伝承遊び」「節分やひな祭
りおやつ」など、季節を感じる行事を計画します。

3、家庭との連携

(1) 児童館



①利用者との日常の会話を大切に

●ある保護者との出来事●

保護者の中には子どもの発達を心配していても、誰にも話せず悩んでいる方もいます。児童館の2階で行なった乳幼児の行事が終わっても1階に降りず、親子で遊んでいた方に、活動中の子どもの表情の変化を伝えたところ、母親から「実は言葉の遅れが気になっているんです」という相談がありました。話を聞いた職員が発達についての知識を持っていたので、相談に対してすぐに応えることができ、結果その親子は毎週来館するようになりました。その子どもも児童館で遊ぶことが楽しみになり、出来る事や表現が豊かになり、来館するたびに子どもの発達や成長を共に喜び合っています。相談に応えることももちろんですが、その後の共感や一緒に考えていきたいという職員たちの気持ちが実を結んだ出来事でした。

②利用者との情報交換

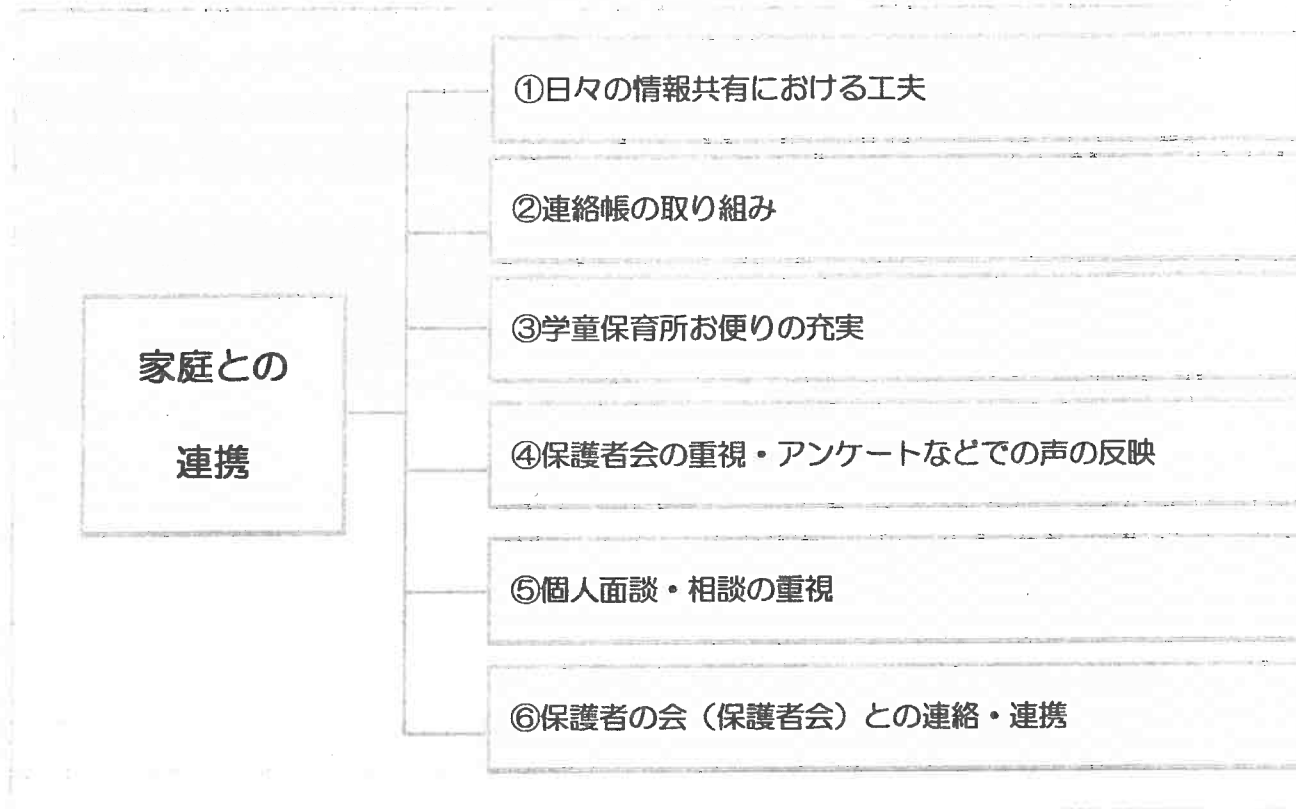
・もとまち地域会議への参加や利用者協議会の開催

児童館の運営に、利用者や地域の方に関心を持って頂き、よりよい事業運営をするために、もとまち地域会議に参加させて頂いています。地域の方はもちろん、小学校や中学校、関連団体の方たちとの情報交換、意見交換は児童館運営に欠かせないものになっています。また、児童館の利用者協議会も回数を決めてしまうのではなく、要望や意見が上がった時には随時行い、利用者の方からの生きた意見を積極的に取り入れていきたいと考えています。

・児童館だよりの工夫、ニュースの発行、掲示板の設置

児童館のおたよりだけではなく、もとまち児童館独自で乳幼児向けのおたよりや各行事の個別のチラシを作成し、広く、ピンポイントに情報が伝わるようにしてきました。

(2) 学童保育所



①日々の情報共有における工夫と今後の展望

学童保育所の運営において日々の情報共有は非常に大きな要素だと考えています。

昼礼時に、昨日起きた事、対応した事例の共有をすることはもちろん、様々な変更などの連絡共有も職員間の連絡ノートや保育日誌などを使い、誰が対応しても間違いの無いようにしています。また、学童保育所のみでの会議だけではなく、別棟の施設ですがもとまち児童館職員との合同の会議なども行い、連携と情報共有の場を設けています。

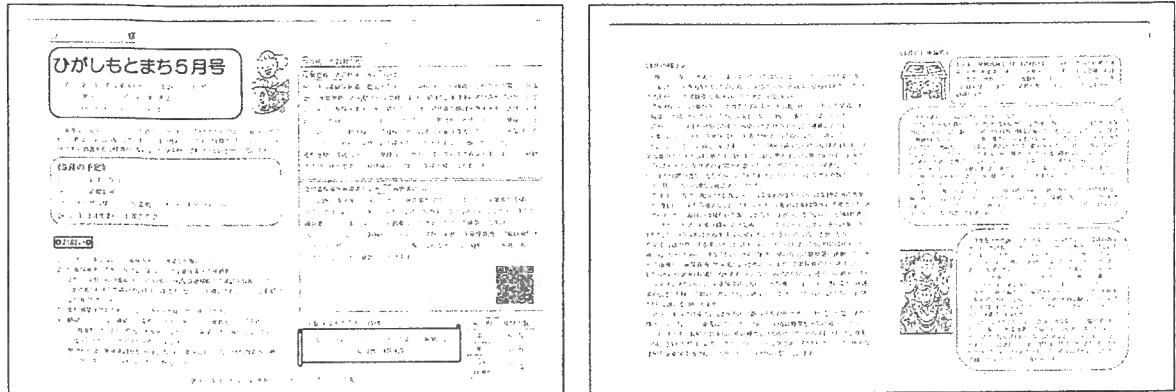
他にも、保護者やご家族との情報共有ではお迎えの際のコミュニケーションを大切にしています。その関わりの中で日々のお子さんの様子や成長を共有し、お仕事などの疲れを癒やせるような暖かい雰囲気迎え、交流できるように心掛けています。また、兄弟を連れてお迎えの家庭もあるので、将来学童保育所が安心して楽しめる場所になってもらえるように交流しています。その中から子育ての相談を受けたり、卒所後の兄弟の成長を共有したりする機会も多くあります。

②連絡帳の取り組み

子どもたちが安心して生活する姿が、保護者の何よりの安心だと考えます。学童保育所での日頃の様子や子どもの成長する姿を、丁寧に伝え、子育ての不安や悩み、喜びを共有し、働きながらの子育てを支えられたらと考えます。出来る限り日常の様子を書き込み、お迎え対応以外の方たちにも子どもたちが学童保育所でどのように過ごしているかを伝えていきます。

③学童保育所お便りの充実

家庭との関わりや共有には、お迎え時などのコミュニケーション対応や電話対応もありますが、忙しい保護者の方とのやりとりでは連絡帳や定期的なお便りの発行が中心となります。個々の様子は、個別の伝え合いになりますが、学童保育所で過ごす子どもたち全体の様子や日常など幅広い情報の中で子どもの様子を知ること大切だと考えています。毎月1回の定期発信と必要に応じた情報提供を行います。



④保護者会の重視・アンケートなどでの声の反映

年に3～4回の保護者会は、職員とだけではなく、保護者同士の交流や、いっしょに子どもを育てていく家庭とさまざまな価値観や意見を出し合い、よりよい子育てを考えあう場として貴重です。有意義な場になるようにテーマ設定や工夫をしています。また、アンケート活動などを通じて、保護者会に参加しにくい方々の意見反映も大切にします。

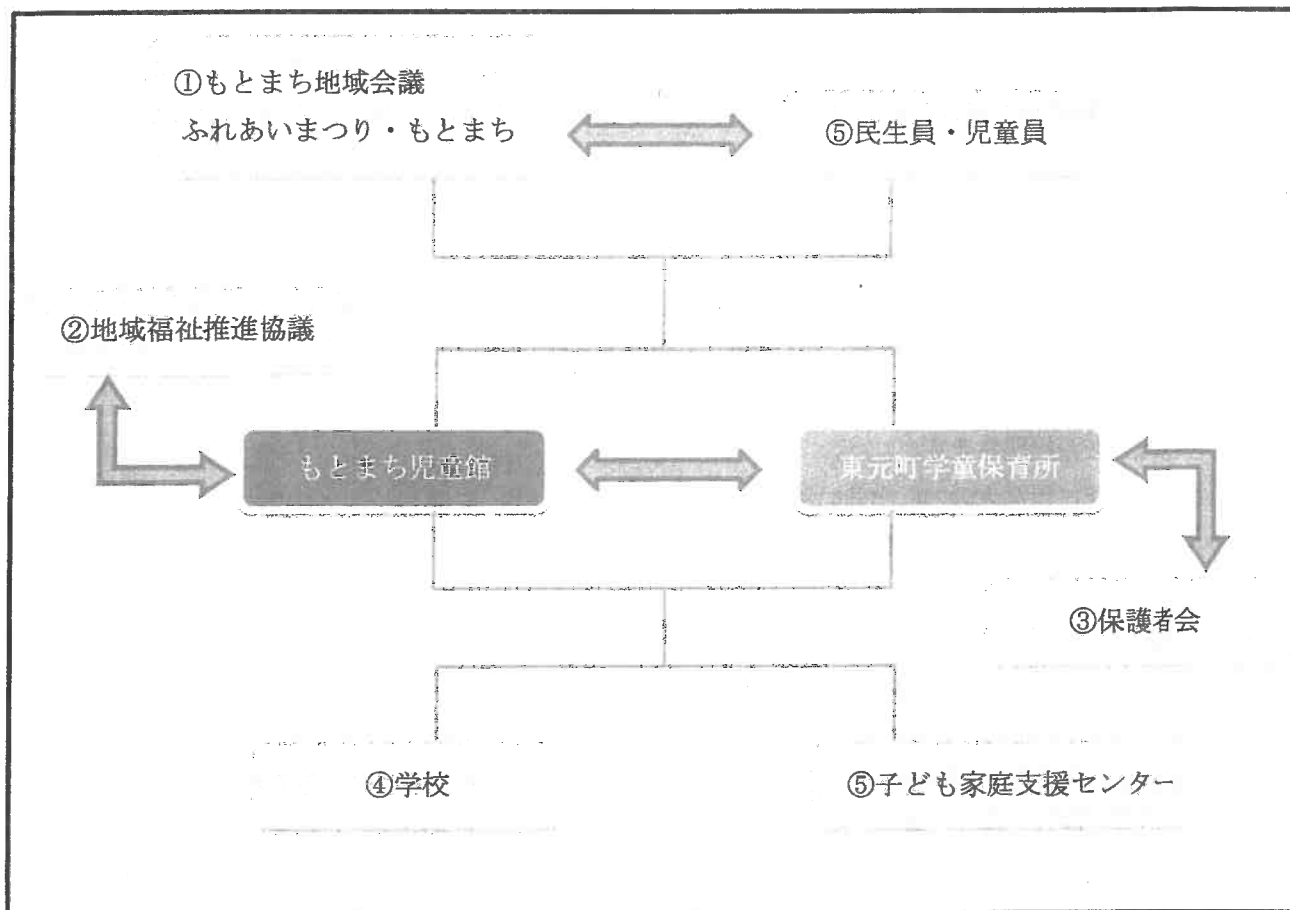
⑤個人面談・相談の重視

一人ひとり違う育ちにあわせて、保護者と信頼しあい、力を合わせる機会です。随時必要に応じて個人面談を行える環境と、年度末に向けて個人面談期間を設けて次の年度への相談や共有、支援方法を確認できるようにしています。家庭や学童保育所での子どもの様子・変化・成長を確かめ合って、これから必要な支えを見つけていきます。また、働きながら子育てをする家庭の悩みなども受け止め対応していきます。

⑥保護者の会（保護者会）との連絡・連携

日頃の学童保育所運営や保育への理解を深め、子どもたちが楽しく豊かな放課後等の生活を過ごせるように保護者の会（保護者会）の方たちと情報共有・相談・連絡を丁寧に行っていきます。また、夕涼み会などを中心に、学童保育所職員として保護者の方々と連携し子どもたちのために共に楽しい行事や取り組みが行えるように協力し合える関係を大切にしています。

4、地域との連携



(1) もとまち地域会議、ふれあいまつり・もとまちへの参加

もとまち児童館では、「もとまち地域会議」だけではなく、地域の大きなイベントである「ふれあいまつり・もとまち」に参加させて頂いております。実施までには実行委員会を何度も行ない、その中で情報交換を密にすることが、よりよいお祭りの実施へと繋がっています。その中で上がる児童館への要望や、地域の方々、PTAの方々からの意見に真摯に耳を傾け、既存のお祭りに固執せず、児童館として新たなイベント性を模索してきました。今後も、地域の声を受け止め、事業に反映できる開かれた施設を目指していきます。



(2) 地域福祉推進協議会への参加

2015年度より、国分寺市地域福祉課主催の「地域福祉推進協議会」に参加させて頂いています。様々な市民や団体と情報交換や共有ができることで、普段は見落としがちな配慮や活動のヒントを得られています。今後は協議会で繋がる事の出来た方たちと一緒に、地域の役に立つ働きや児童館ならではの活動を進めていきます。

(3) 保護者会の開催(学童保育所)

東元町学童保育所では、年4回の保護者会に加え、入所説明会、必要な時は臨時の保護者会を設け、地域や保護者との連携を図ってきました。今後もその連携を活かし、より良い保育の実践を進めていきます。

ア)学童保育所の目指すものを伝えます。

イ)住民の声を直接聞きます。

ウ)地域のさまざまな人の力に出会います。

エ)これからの学童保育所の具体的な活動に活かしていきます。

(4) 学校との連携

- ・学校の担当窓口、子どもの担任の先生との日常的な連絡や関係作りを大切にします。放課後の子どもたちの様子、成長、変化をニュースや担当の先生との交流を通して伝えます。
- ・運動会や学芸会、卒業式などの学校行事の見学をしていきます。子どもたちの学校生活を知り、日常の指導に活かします。また、毎月のニュースを届けたり、子どものことで必要に応じて、学校の先生から情報を得たり、相談し合える関係を日頃から築きます。

(5) 子ども家庭支援センターと、民生委員、児童委員との連携

もとまち児童館では、民生委員の方や臨床心理士、国分寺助産師会の方が各種の行事に参加して下さり、乳幼児の保護者への育児相談にも関わってくれています。地域の専門の方と協力しながら、利用者が安心して子育てが出来る環境をより一層整えていきます。また子どもたちの安全な生活を守るために、学校でも家庭でもない児童館という場所で、様々な顔を見せる子どもたちの様子を見守り、同時に子ども家庭支援センターと協力をしながら情報共有を行います。

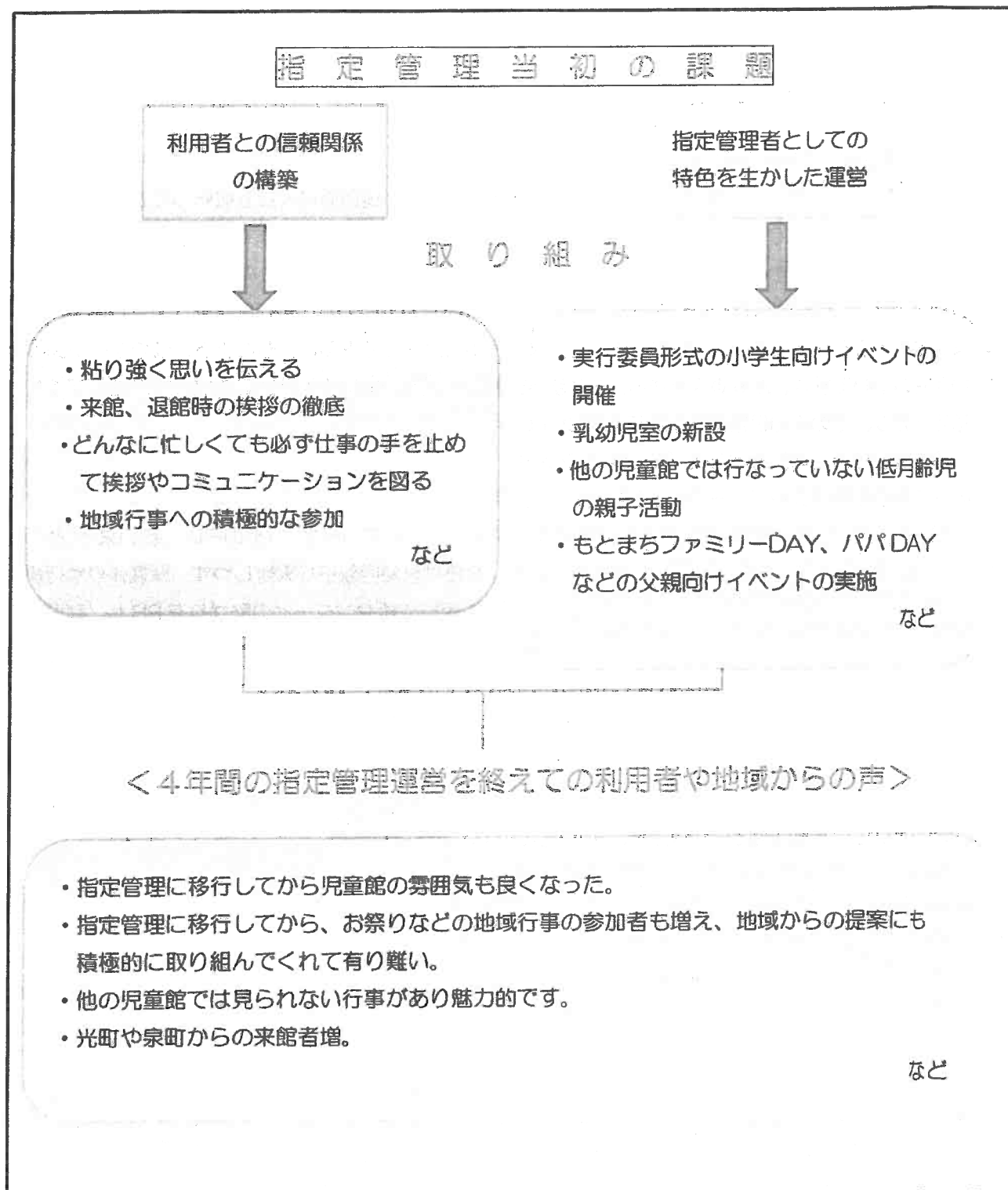
更に学童保育所においては、今後のあり方のひとつとして、その地域における子ども家庭支援センターの分室的な役割が求められています。子育てに対して不安や悩みを抱える保護者の相談や、虐待または虐待の疑いのある子どもを発見した際に、速やかに関係機関へつなぐなど「子育てのコーディネート」をしていく必要があります。

学童保育所に通う子どもの中で気になる子どもに関しては、子ども家庭支援センターの方と話し合いの場を持っています。様々な角度から子どもたちを支援しようとする姿勢や、家庭環境の背景から原因を探る家庭支援センターの情報は、子どもたちと接する上で参考になります。

(8) 受託への熱意・意欲

～全ての子どもと保護者、そして地域にとって安心できる新しい居場所を目指して～

1、もとまち児童館4年間の歩み



(1) 子どもたちの変化と今後の展望

指定管理移行当初は、今までの職員が居なくなったことや、新しい職員の言うことに対して反発する子どもたちの姿も見られましたが、来館時退館時の挨拶をはじめ、粘り強くこちらの思いを伝えてきたことで、子どもたちとの関係性も変化していきました。現在では児童館が遊び場としての存在だけでなく、身近な頼れる大人がいる居場所へと変化してきています。今後の児童館の有り方として、放課後の遊び場、安全な居場所としての機能だけではなく、社会経験や異年齢活動を多く経験できる組織活動などを作り、遊びを通して子どもの健全発達を促していきたいと考えています。

(2) 利用者数・利用者層の変化と今後の展望

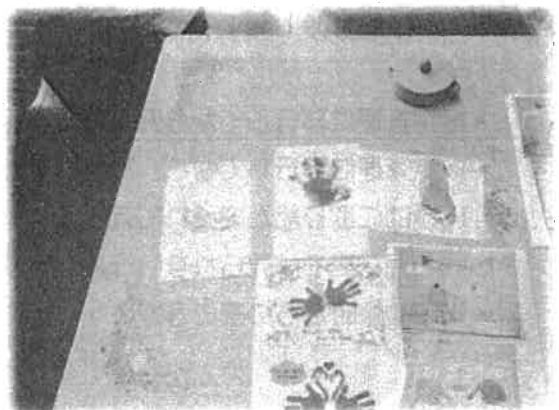
指定管理が始まってから、乳幼児親子に対して来館時の挨拶、退館時の挨拶を徹底してきました。急ぎの仕事があったとしても事務室から挨拶をするのではなく、手を止め、玄関まで必ず職員が出ていき、一人ひとりに来館に対する感謝の気持ちを伝え、退館時のお見送りもしてきました。他にも乳幼児室を新設したり、他の児童館では行っていない低月齢児の親子活動を行ったりと、試行錯誤をしてきた結果、登録者数も初年度と比べて100人程増えました。また利用者層を見てみると、もとまち地域や府中市民の方が利用の中心ですが、光町や泉町から、もとまち児童館の行事に参加するためにわざわざ来館してくださる方もおり、その後の日常的な来館にも繋がっています。

今年度から新たな試みとして「もとまちファミリーDAY」を実施しています。乳幼児とその保護者を中心に親子体操やプレイパークなどを行ない、その間に1階で地域の野菜を使った軽食を作り、無料で提供するもので、父親の育児参加や小学生の食育などをねらいとしています。行事の日は父親の来館が増え、いつもの児童館とは少し違う雰囲気になっています。今後は乳幼児親子が来館しやすい環境作りや行事の開催だけではなく、近隣の様々な施設や専門家、子ども家庭支援センターとの繋がりをPRし、育児や発達に対する不安や心配ごとに対しても対応できる、共感できる施設作りをしていきます。また、その中から「父親の会」を作り、地域の父親の育児参加を促していきます。

(3) 利用者や地域からの声

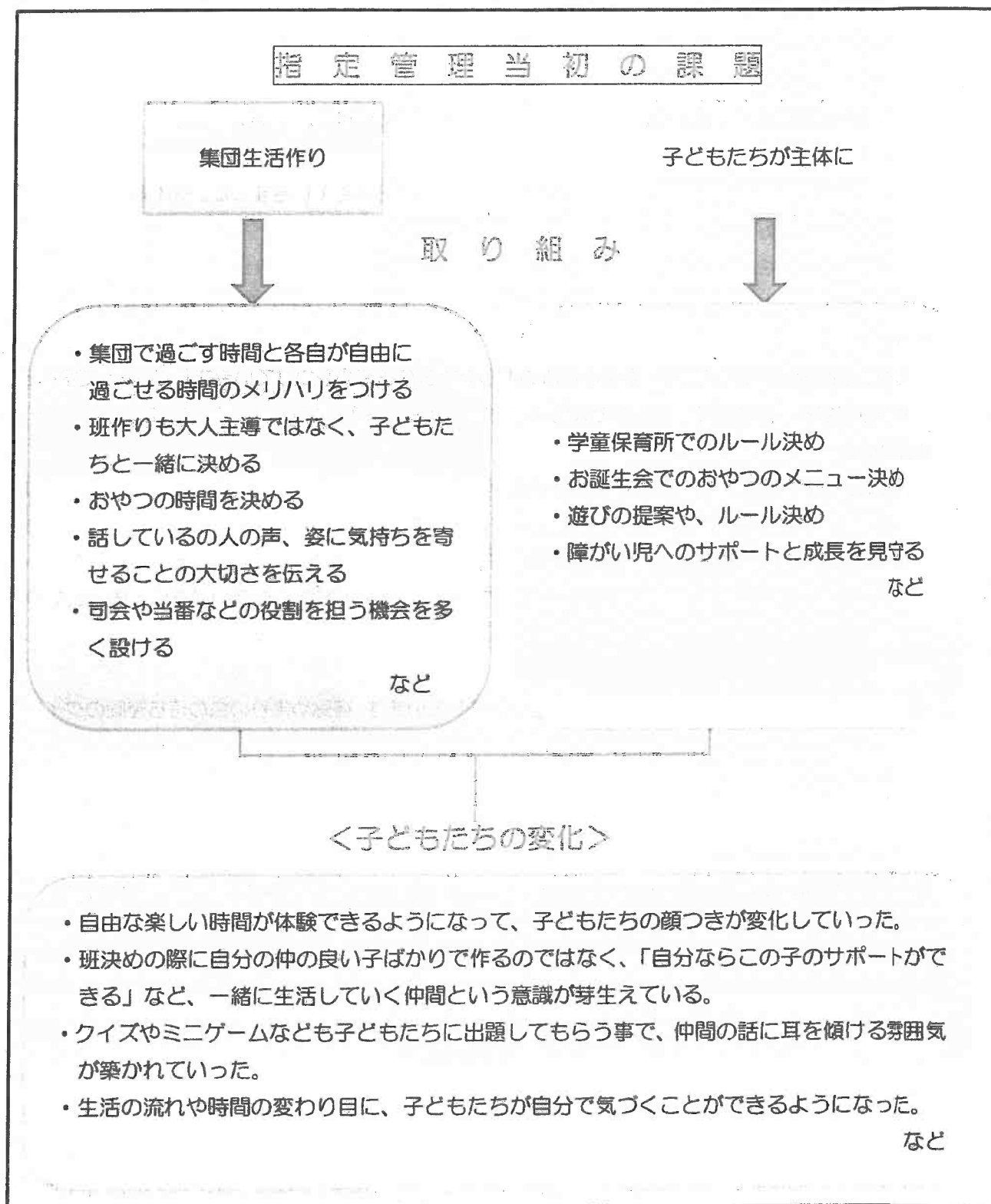
指定管理が始まり、少しでも地域に貢献できる館でありたいと児童館運営を行ってきました。その中で、地域の方たちから貴重なご意見、ご指摘を頂く事や、私たちの活動を評価して下さいる事などもあり、いずれも運営に対する意欲に繋がっています。

「指定管理に移行して良かった」「他の児童館では見られない行事があり、魅力的です」などの声は、私たちにとって最大の励みであり、今後も創意工夫を重ねて今までとは違った児童館運営を行ない、もとまち地域に貢献していきます。



～子ども一人ひとりが輝き、成長を確かめ合える居場所を職員・保護者・地域と築く～

2、東元町学童保育所 4 年間の歩み



(1) 集団生活作り

①メリハリ

学童保育所という異年齢の子どもたちが共に過ごす場において、集団で過ごす時間と各自が自由に過ごせる時間のメリハリをつけ、気持ちよく過ごすマナーやルールの大切さを知ってもらうことを重視して取り組んできました。初めはなかなか聞き入れなかった子どももいましたが、実際に自由な楽しい時間が体験して行けるようになって子どもたちの顔つきが変化していきました。

②班作り

班作りも子どもたちから班長を募り、班長と話し合いながら決めていきました。初年度は班長になる子どもたちも「好きな子と一緒にの班」という考えが多かったのですが、今では、「この子のサポートできるから自分の班に入れてもいいよ」「おやつ集まり遅い子だけど自分が早めに呼ぶよ」など、様々な個性の子どもがいながらも一緒に生活をしていく仲間という関係まで深まってきています。

③おやつ

おやつは時間を固定して決め、学童保育所のみんなで食べる習慣をつけていきました。座って食べる、片づけをする、話を聞く、基本的で大切なことを一つ一つ伝え、体験していきました。

④帰りの会

帰りの会など集団で集い、話をする場面では、話している人の声、姿に気持ちを寄せることを大切にもらえるように働きかけてきました。中には騒いでしまう子どもたちもいたため、「誰かの為にいいことをしてくれた子」を職員が気が付いた時にメモして、帰りの会で発表する取り組みを行いました。日々の小さな出来事も全体に伝えることで、優しさを知り友だちの良い面を知る機会となりました。

⑤役割

長期休み中は希望を募り司会や当番ができる様にしています。掃除や帰りの会の待ち時間のクイズやミニゲームも子どもたちに出題してもらう事で仲間の話に楽しみながら耳を傾ける雰囲気が出来てきました。

(2) 子どもたちが主体に

学童保育所のルールやお誕生会のおやつメニュー、遊びの提案など、出来る限り子どもたちと考えて、興味を持って学童保育所の活動に取り組めるように進めてきました。

その結果、少しずつ子どもたちにも変化が出てきました。また、子どもたちと一緒に掲示物などを作成したことで生活の流れが分かるようになり、時間の変わり目になると子どもたち自身で気付けるようになりました。

施設としては、障がいを持つ児童の入所も増えています。また、発達のことや気持ちに大きな波を抱えていて気になる児童も在籍しています。子どもたちは色々な仲間がいて、違いを知り、けれども守らなければならないルールやマナーもあり、どうしたら良いか、どうサポートすれば一緒に歩んでいけるかを学んでいる場でもあります。5年目を迎えてサポートの必要な子への優しさやできない事への評価ではなく、それぞれのペースで成長し変化していくのを待ってあげる心が施設の中の雰囲気に出来てきました。

2、4年間の運営で見えてきた課題

(1) 父親の育児参加促進

メディアで報道されているように、母親が主になり、1人で子育てを担っているという話しをもとまち児童館でも耳にします。それと同時に、父親に育児参加の意志がないのではなく、休日の際に子どもと行きやすい場所や環境、行事が少ないことも教えて頂きました。乳幼児親子に限らず、多くの世代の親子が参加できる行事を企画し、交流を図るとともに、いつでも寄り添える場所とし、地域に根付いていきたいと思います。

(2) 社会経験、自然体験の減少

4年間の児童館運営の中で、子どもの周りから社会体験や自然体験などを、体で感じて学んでいく機会が減少していることを感じてきました。安全で安心して過ごせる居場所が習い事に移行し、失敗がマイナスだと捉えられがちな中で、失敗から学ぶこと、異年齢交流から学ぶこと、自然体験から学ぶことなど、子どもたちが体験、経験から学べる機会を児童館として積極的に作っていきます。

(3) 障がい児の居場所

障がいを持った子どもが学童保育所に通うことが増え、放課後デイサービスの需要が大きくなっています。以前よりも施設を選べるようになりましたが、今度は中学生・高校生以上の居場所が無く、中学校・高校を卒業後、どのように過ごせば良いのか悩ましいという課題があります。大人になった時の居場所づくりもワーカーズコープとして考えていきます。

(4) 4年生以上の居場所・学童保育所のニーズ

指定管理1年目、まだ1・2年生の保護者の方から4年生以上のわが子の生活の心配が出され、年々多く聞かれるようになりました。実際に4年生以上になって、地域や習い事・塾などで過ごしている子どもたちもいますが、家庭状況や保護者の勤務先によっては災害時など仕事を優先にしないでほしい家庭もあり、不安で心細い思いを抱えている児童もいます。日頃から関係を築いていき、寄り添える職員がいる居場所が4年生以上の児童にも必要と感じています。

3、課題解決に向けて

指定管理運営を重ねるにつれて、協力して下さる地域の方々とのつながりが広がってきました。当法人が、市内で担っている施設（2児童館、7学童保育所、民設民営学童保育所、福祉センター、放課後等デイサービス）の連携を最大限に生かし、障害の有無を問わず子どもから高齢者まで、世代をこえて地域福祉に関わり、まちづくりに貢献していきます。

(1) 地域と共に地域活動を進める

児童館・学童保育所主催の活動だけではなく、地域の方々や保護者の方々と一緒に地域活動が出来るように働きかけていきたいと思います。

- ①「もともちファミリーDAY」を地域と一緒に運営にしていく
- ②もともち地域会議に参加し、町会・自治会と一緒に盛り上げていく
- ③「父親の会」をつくり、横のネットワークをひろげる
- ④卒所生の会をつくる

●もともちファミリーDAYの実施●

2017年6月からもともち児童館で“もともちファミリーDAY”を実施しています。地域の方から、父親が気軽に参加できるイベントをして欲しいという声がかっけで始めた行事です。父親の育児参加促進や、地域にある食を通しての、今までの児童館とは違う新たな「居場所」の提供がねらいです。

児童館の職員と学童保育所の職員が協力し、親子体操やプレイパークの実施、地域の野菜を用いた軽食や市内にあるおもしろ工房のパンの提供をしています。行事を行なって行く中で、地域の農家さんが、ポスターの掲示を申し出てくださり、国分寺助産師会の方や臨床心理士の方がイベントに参加し、保護者の相談に乗ってくれたり、民生委員の方たちが調理のお手伝いをしてくれたりと、遊び場としての児童館とは違う「居場所」作りが進められたように感じています。小学生にとっても無料の食事提供は驚きだったようで、食事目的に来館する子どもたちも回を重ねるにつれて増えています。

今後も2施設での連携、地域との連携を、様々な場面で地域に還元できればと考えています。



(2) 小中高生の新たな居場所を考える

安全な遊び場、居場所、三間（時間、空間、仲間）の共有が失われつつある社会に置いて児童館の果たすべき役割は大きいと考えます。社会性を育む活動や、ボランティア活動、食育など、経験し、そこから学ぶことを重視した事業展開をしていきます。

- ①「ふれあいまつり・もともち」や「さわやか夏祭り」などの大型行事に小中高生を実行委員として巻き込む
- ②定期的に子どもたちを集め、異文化学習や、館庭を活かした野外活動、障がい者スポーツ体験など、普段触れることの少ない文化やスポーツを経験できる場を作る

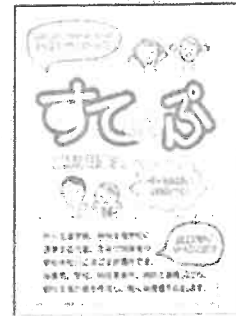
(3) 障がい児、障がい者の居場所作り

障害のある子どもの居場所作りと、18歳以降の若者・障がい者の就労場所作りにも力を入れます。

- ①放課後等デイサービス
- ②児童館主催のペアレントトレーニングなど、保護者向けの講座開催
- ③障がい児者理解の研修の充実
- ④障害者の就労継続支援 等

●放課後等デイサービス「すてっぷ」との交流●

平成28年度にもとまち児童館で行なった「クリスマス会」に昨年度法人で立ち上げた放課後等デイサービス「すてっぷ」の子どもたちが参加してくれました。普段は関わる事のない子どもたちですが、レクリエーションをはじめとして様々な交流を持つことが出来ました。日常的には当法人が指定管理で運営しているひかり児童館を利用してきています。一人の子どもに同じ法人の多くの現場職員が関わったことで、保護者の方からも「安心できる」という声を頂いています。今後も複数の現場を運営することのメリットを生かしながら、日々地域の方たちのニーズに응えて行きたいと思っています。



(4) 民設民営放課後児童クラブ（学童保育所）の設置を行っていく

国分寺市の状況として、子育て世代の流入により、学童保育所の児童数が増加傾向にあり、子どもの数が平成32年をピークにその後も減少に転じないと言われています。そのため、法人として、公設民営の学童保育所の運営だけではなく、民設民営放課後児童クラブの開設も積極的に行っていきます。

- ①児童数の入所率が高い地域に民設民営学童保育所を設置していく
- ②民設民営学童保育所内で親子ひろばや利用支援事業など、自主事業に取り組んでいく
- ③子どもだけでなく、高齢者や障がいを持つ方たちが集う場所とする
- ④4年生以上の児童の新たな居場所とする

(9) 事業運営への独創性

*団体等でしかできない事業提案

1、市内全域での子育て支援とまちづくり

(1) 児童館同士の交流の強化

他の児童館との合同行事を増やし、普段は関わる事の少ない子どもたちや保護者、そして職員が交流できる場を増やしていきます。

(2) 他の学童保育所と連携した遊びの広がり、子ども同士の関わり合い

国分寺市内にある2児童館、7学童保育所、1民設民営学童クラブは当法人が運営させて頂いています。そのスケールメリットを活かし、合同の遠足の企画や武蔵国分寺公園など市内の公園や施設でのレクリエーション、スポーツを通しての交流を図りたいと考えています。

(3) 「民設民営放課後児童クラブ」(学童保育所)

今年度より、国分寺駅前に民設民営放課後児童クラブを開設しました。既存の学童保育所と連携することはもちろん、地域に開かれた施設を目指したいと考えています。児童の在籍数が定員数を大幅に超えている学童保育所もあり、狭隘状況の解消のために、学童保育所の増設は非常に重要です。また、まちづくりの視点を忘れず、地域の課題をともに考え、解決することを大切にしています。

(4) 国分寺市立福祉センター

国分寺市立福祉センターで行っていた英語の発音教室に、当法人が運営する学童保育所の子どもたちが参加させて頂きました。当日は英語の発音を楽しく勉強し、講師の方が子どもたちに喜んで欲しいと、一人一人に風船を配布して下さり、バルーンアートまで行ってくれました。その後、ビンゴゲームをして景品も頂き、子どもたちはとても楽しく充実した時間を過ごすことが出来ました。国分寺市立福祉センターの運営も担うこととなってから、初めての交流の機会となりました。



(5) 放課後等デイサービス

昨年度より市内に開設した放課後等デイサービスでは、学童保育所に通っていた障がい児をお預かりしています。同じ児童を異なる同法人内の施設で見守ることで、子どもたちの成長や特徴などを、職員間で共有し、包括的に子育てを支えるネットワークを築いています。職員の児童対応の専門性も高める機会にもなります。

2、社会連帯活動

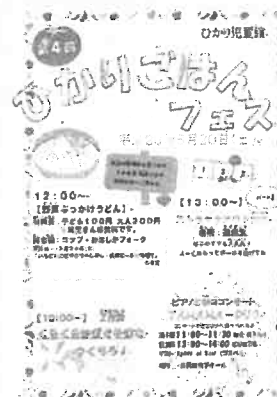
働く者とワークスコープがお金を出し合って「社会連帯委員会（2004年11月）」が発足し、地域社会との連帯を大切にし、その課題に応える活動と共に、自治体や地域の様々な組織と一緒に進めてきました。一人ひとりの市民が繋がり合い安心して暮らせる社会を目指して、法人と働く者、市民が会員となり積立を行っています。その活動資金により、市民や各種団体とともに多種多様な地域貢献の活動を行ってきました。

昨年度からは当法人が運営しているひかり児童館において、「ひかりごはんフェス」、今年度からはもとまち児童館で「もとまちファミリーDAY」を社会連帯活動として実施しています。子どもたちやその保護者に対しての安全、安心な食の提供、父親の育児参加促進につながる行事の開催などが活動の中心になっています。

●もとまちファミリーDAY、ひかりごはんフェスの実施●

2016年5月より当法人が運営するひかり児童館で月に1度“ひかりごはんフェス”を実施しています。児童館に遊びに来る子どもたちの食事が、カップ麺や駄菓子など栄養価が低く、食品添加物が多く含まれるものであることに対して、何か出来ることはないかと思い、始めた行事です。

児童館だけで実施するには規模が大きく、また地域の方や保護者の方たちの協力が不可欠だったため、ひかり児童館 第一光町学童保育所、第二光町学童保育所の3施設が企画、準備、協力依頼などを行いました。また、当日の協力として 第三泉町学童保育所も加わり、4施設合同の大型行事として実施しています。地域の方が野菜を下さったり、学童保育の職員がピアノの演奏をしたりと、4施設の連携があって初めてできる行事であり、今後も同様に4施設での連携を地域に還元できればと考えています。



3、具体的な事業提案

- ・保護者・子ども・職員と交流のできる行事の提案（親参加型の行事）をしていきます。
- ・地域で関わりのある方々を招待したり、積極的に地域に出たりし、多世代交流を図ります。
- ・障がい児への支援進めます。
- ・学童保育所、他現場との連携を図ります。

事業提案

| | |
|----------|--|
| 親子スポーツ大会 | 親子で一緒に楽しむことができるスポーツを行い、親子の交流と家族同士の交流を図ります。 |
| 親子デイキャンプ | 学童保育所で保護者の参加を募り、デイキャンプを実施します。保護者の協力を仰ぎ、レクリエーションや調理などを行います。 |
| 交流スポーツ大会 | 中高生を中心とした企画で、児童館対抗のバスケットボール大会などを行います。 |
| 交流お泊り会 | 当法人が運営している児童館で参加者を募り、普段利用している児童館ではない館に宿泊し、その館を利用している子どもたちと交流します。 |
| クリスマス会 | 学童保育所内で、クリスマスに向けて子ども達と歌やハンドベルなどの出し物を企画し、保護者を呼んで発表する機会を設けます。 |
| 組織活動 | 小学生対象の登録制の活動で、週に1回集まる日にちを設け、異文化体験やレクリエーション活動など様々な活動をしていきます。その中でボランティア活動や、文化活動の発表等を通して保護者や地域と繋がって行きます。 |
| 親子ハロウィン | 乳幼児親子に館内で仮装をしてもらい、その後近隣の高齢者施設まで仮装行列をし、交流します。 |
| おはなしトレイン | 幼児向けの読み聞かせやペープサートをボランティアの方たちにお願ひし、普段見たり、聞いたり出来ないお話しに触れる機会を設けます。 |
| 組織活動発表会 | 「さわやか夏祭り」や、「ふれあいまつり・もとまち」などの大きなイベントの際に、組織活動で練習してきた歌や出し物を高齢者施設や公民館で発表し、多世代交流を図ります。 |
| お汁粉・お雑煮会 | 子どもたちだけではなく、普段お世話になっている方たち、近隣の高齢者施設や地域の方、保護者をお招きして、季節感のある軽食を提供し、交流します。 |
| 音楽会 | 障がい児の親子を呼び、障がいを持ったお子さんでも楽しめる音楽の場の提供をしていきます。演奏終了後は茶話会なども行い、保護者同士が繋がりを持つことができる場を作ります。 |
| プレイパーク | 障がい児の中にはトランポリンやハンモックなど特徴のある遊びを好む子どももいます。そのような子どもたちも児童館に来れば楽しいと思えるような環境設定や遊びができる場としてプレイパークを実施します。同時に職員研修などで学びを深め、子どもやその保護者に寄り添った関わりをしていきます。 |
| 交流遠足 | 武蔵国分寺公園などに施設ごとに集まり、レクリエーションなどを通して子どもたちが交流する場を設けます。 |
| 交流スポーツ大会 | 複数の学童保育所が集まり、ドッジボールなど子どもに人気のスポーツを大会形式で実施します。 |

上記以外にも様々な行事を市と協議しながら企画していきます。

(10) 施設管理の安全性への配慮

*有資格者の常駐・施設管理の専門性のある団体等

1 施設管理全般に対する考え方

公共施設を運営する上では、様々な危機管理が必要となります。日常の安全点検から組織的な危機管理の構築まで、多面的な視点が重要です。子どもたちに安全な保育を継続していくために、施設の管理を適正に行ないます。

施設内には防火管理者・防災管理者講習を受講した者を配置します。また国分寺市在住の方の雇用を優先し、可能な限り緊急時には地域の職員が対応できるよう体制を組みます。また、当法人では、三多摩全域にエリアマネージャー・子育て支援の専門家を配置しており、定期的に巡回し、保育のことはもちろん、環境整備や安全管理などの施設管理についても指導しています。

事故予防と発生時の対応のマニュアルは、全職員で研修を行い徹底します。また、当法人の運営する都内の公共施設責任者からなるリスクマネジメントチームを設置しており、定期的に事故、ヒヤリ・ハットの水平的展開や事例検討を行ない、全職員に即効性のある情報の共有、危機管理を行います。事故発生時や緊急時の対応については、保護者や学校、国分寺市との間で、事前に十分共有しておき、迅速に関係者への連絡を行ない、責任ある対応を進めます。

2 児童の事故防止

子ども1人ひとりの状態や友だち関係を含めた状況の把握を最も重視し、子どもの安心感や落ち着いた生活環境を作り出すことが安全につながり、職員はその視点から子どもと関わり、生活作り、仲間作りを行っています。

- ・遊びの場と生活の場としての環境整備を行い、清掃・整理整頓・危険物の除去・修理・取り替え・危険表示・使用禁止措置等を行います。
- ・子どもが危険に気づいて判断したり事故等に遭遇した際に被害を最小限にしたりするための安全に関する自己管理能力を身につけられるように援助します。事故や怪我、災害等の緊急時に子どもの安全が守られるように対応方針を作成して定期的に訓練を行います。
- ・対人管理では利用者の把握に努め、子どもの遊びや個別的な性格・体力差・利用者の館内導線、利用方法などの把握・点検を行います。
- ・対物管理では遊具・設備・備品等の点検を職員や専門家によるチェックや危険箇所と事故実態の把握を行います。
- ・年齢に合った業務内容や指導体制、行事などの非日常活動での安全管理を行います。

3 職員の事故防止

安全な環境整備、職員配置を行い、事故・怪我を予測し予防します。死角ができないよう職員間で配置確認し、子どもの動線を踏まえた安全確保に努めます。KYT（危険予知トレーニング）を用い、現状把握・対策樹立・目標設定を行い危険の優先順位を考えられるようにします。職員一人ひとりの日々の体調管理に務めていきます。

4 施設安全対策

施設の構造（窓・出入口・廊下・電源・コンセント等）、遊具の安全性、危険物の保管・管理・危険箇所への侵入対策などについて毎日日常点検をします。死角ができないよう、職員間で配置を確認し、子どもの動線をふまえた安全確保に努め不備欠陥があった場合には、速やかに撤去、修繕します。避難路は障害となるものが置いていないか定期的に確認をします。

5 屋外活動での事故防止

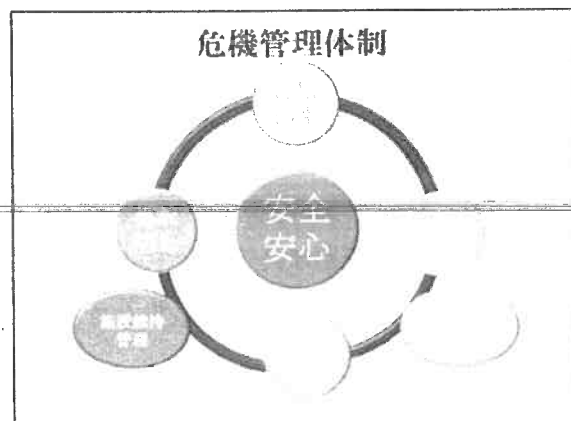
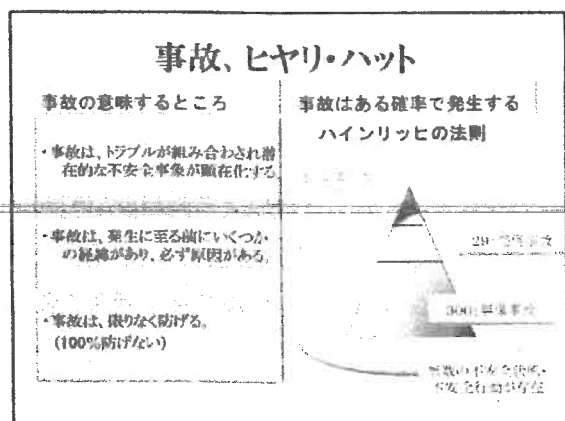
- ・屋外活動では子どもの健康状態を把握し、出発時に目的地、人数、帰りの予定時間などを全職員が周知します。
- ・無理のない計画をたて、ルート、危険箇所のチェック、休憩・トイレの場所などを事前に把握します。
- ・職員は子どもたちに出かける前にコースや注意事項を伝え、安全に楽しく遊ぶよう注意を促します。子どもが怪我をした時支援が得られるよう、日頃から地域の方々と関係を築いていきます。

6 再発防止策

全職員を対象に研修を徹底します。私たちの運営する都内の公共施設責任者からなるリスクマネジメントチームでは、公共施設運営に関わる全職員に情報の蓄積と共有を行っており常に最新の情報に基づいた研修を実施し事前の事故防止や初期対応が行えるようにしています。

具体的には以下の取り組みを進めます。

- ・事故発生時や緊急時の対応については、保護者や地域の関係機関との間でも、事前に共有しておきます。
- ・安全管理に関して職員会議で取り上げ、ヒヤリ・ハット記録や、保健記録、事故報告書を作成しリスク管理の一部として再発防止に努め、各現場と情報を共有し、日常的に危機管理意識を高められるようにし、死角をつくらないように配置確認を行い、子どもの遊び場を常に見守ります。
- ・職員は子どもと関わりながらも全体の子どもの把握し、子どもたちと一緒にルールを確認したり、子ども同士でも注意し合えるように働きかけます。
- ・子ども自身の判断で危険から身を守るような力を大切に育てていき、安全に過ごすためのルールについて確認し厳守できるようにし、職員間で意識を統一し、注意して見守っていきます。
- ・ハインリッヒの法則にもあるように、不安全状態・不安全行動にいかに関早く気づき適切な対応ができるか多くの事故を防げると考えています。事故を限りなく防ぎ、安心・安全の施設運営を目指します。
- ・日常的に保護者と職員が子どもの様子や行動について、きめ細かく話し合っておきます。犯罪や事故から身を守るための注意事項について家庭でも日頃から話し合われるように情報を提供し働きかけます。



7 緊急時事故対応マニュアル

事故が発生した場合、職員は、安全確保をした上で迅速に本人の怪我の状態を確認します。子どもに対しては、優しく穏やかな声かけをして不安を与えないようにしながら、応急処置をし、必要に応じ医療機関で受診します。保護者とすぐ連絡を取り状況を丁寧に説明します。また保護者の判断を求める場合には、保護者がお迎えに来るまで休ませるのか、職員が最寄りの医療機関へ連れて行くのかなどの確認と合意を図り、誠意ある態度で対応します。

1. 事故発生時の対応について

事故が発生した場合、職員は慌てず落ち着いて対応します。本人の傷、怪我を確かめ、必要に応じて受診させます。保護者とすぐ連絡を取り状況を丁寧に説明します。普段から救急箱の点検をし、近隣の提携医療機関の電話番号、受診項目と受診時間、休診日等を把握して掲示しておきます。また職員は救急法の知識や技術も学んでおきます。

(1) 緊急を有する場合

1. 応急処置

こんなときはすぐに救急車

- 呼吸困難、脈の停止や不規則で弱く、全身状態が悪いとき
- けいれん（ひきつけ）を起こし、なかなか収まらないとき
- 頭、胸、腹などの痛みが特に激しいとき
- 怪我や嘔吐など、出血がひどいとき
- 全身が極度に衰弱した状態（ショック状態）のとき
- その他、職員が緊急と判断したとき

応急処置（重症状態）

意識が不明のとき：口の中の異物を除去し、直ちに気道を確保

呼吸停止のとき：十分に呼吸が回復するか、救急隊に引き継ぐまでは交代で人工呼吸を実施

脈がないとき：床や地面など固い場所に仰向けに寝かせて心臓マッサージを開始

呼吸も脈もないとき：2人以上の協力を得て、直ちに心肺蘇生法を開始

出血があるとき：圧迫止血を行い、それでも止まらないときは止血帯使用

2. 保護者に連絡をする

3. 事故発生時の状況を確認し、記録する。

4. 本部・担当課に連絡をする

5. 事故報告書を作る。

6. 事後対応

(2) 医師の受診が必要と思われる場合

1. 応急処置

- ・責任者、所長、エリアマネージャーに連絡する
- ・保護者に連絡し了解を得る。または保護者のお迎え
- ・応急処置に関しては普段より情報収集しておく
- ・子どもが医療機関に行く必要があると判断した時は、まず、保護者に状況（いつ、どこで、どういう状況で、どこを、どうしたのか）を伝え、受診する旨の了解をえる。その際、どこの医療機関に掛かるのかを話し、指定医がある場合は、優先する。

2. 病院に受け入れを依頼する。職員が同行する

- ・電話は状況の説明が出来る人が掛ける

3. 職員が同行する

- ・搬送方法は、怪我の状況や程度、年齢に応じて、おんぶ、乳母車、自転車、タクシー、救急車を選択する。
- ・自転車を利用する時は、椅子に座らせて、押すだけにする。
- ・公共の移送機関で移送できない場合は、タクシーを利用する。領収書をもらう。

4. 事故発生時の状況を確認し、処置状況を責任者・所長・エリアマネージャー・保護者に報告、記録する。

- ・医師の指示された内容（投薬、検査、気をつける事等）を伝え、次の受診の事などを説明する。
- ・保護者には、誠意のある態度、言葉使いで対応する。

5. 担当課・本部に連絡をする

6. 事故報告書を作る。

7. 事後対応。職員全体で自己分析と反省をし、再発を防ぐように務める。

- ・事故発生、経過、予後などについて正確に記録し保管する。

(3) 自宅対応が可能と思われる場合

1. 応急処置

- ・保護者に連絡をする
- ・保護者のお迎え(必要な場合)

2. 登所時に子どもの状態を確認する。

8 施設の管理全般について

1、環境構成

子どもの導線を考え、危険な物、場所は予めルールを決め、危険を回避できるようにします。

当法人には、清掃やハウスクリーニングを専門に行っている現場があり、国分寺や立川の子育て現場の清掃指導をしています。国分寺市においても同様の連携と支援を行っていきたいと考えます。

設備の機能の維持、安全の確保に立脚した維持管理を行います。備品・消耗品の管理につきましては、常に使う立場に立って、より便利で使いやすいよう整理整頓を行い、且つ無駄を省き管理費の削減に努めます。

①施設・設備の維持管理については、関係諸法令、諸規則を遵守し確実な管理を実施します。

②日常自主点検をはじめ月間・年間の管理計画を立て遜色のない良好な管理を行います。

③安全と利便性を優先し実施します。

④設備の維持管理をむやみに再委託するのではなく、当法人で行える管理は行い設備管理費の軽減に努めます。

⑤協力業者に点検・修理を依頼する場合は、その業者の選定は厳正に行い、国分寺市の承認を得るものと致します。

⑥実施致しました点検・修理等は、報告書を作成し国分寺市へ報告を行うとともに、報告書は保存管理致します。

⑦設備・機器の点検要領書・マニュアル類は、分類整理し、利用しやすいように致します。

⑧施設管理関係者には、施設・設備管理の基本心得や関連知識について研修会を行い、常に施設・設備管理の精通を図ります。

2、施設・設備の保守点検

施設内に危険箇所はないか安全チェックリストを作成し、毎日点検をします。火災や事故防止のため、ガス機器・電気器具・換気扇等の定期的な点検・整備・清掃を行うとともに、火災報知器・消火器・自動消火設備においても定期的に点検します。

3、施設及び備品の維持

仕様書の維持管理項目に準じ、施設および備品の維持管理を行うとともに、管理経験を重ねることでより効率的な維持管理を行います。

4、清掃・衛生管理について

(1) 日常の清掃・定期清掃

- ・清掃チェックリストを作成し、それに基づきチェックを行います。
- ・玩具、遊具、備品については、日常消毒に努めます。
- ・0-157などの食中毒対策、衛生管理を徹底し、食材の調達・管理に特別の注意を払います。
- ・定期的に保健所に指導を仰ぎ、必要に応じて職員研修を行い衛生管理の向上に努めます。

定期清掃に関しては、空調機器のフィルター清掃や床のワックスがけなど、法人内部の清掃現場に依頼し、良質な施設の整備に努めます。また、専門的な清掃指導を受けることで、清掃の工夫などを日常清掃にも生かしていきます。

（２）衛生指導

- ・日常から手洗いを励行します。子どもたちへは正しい手洗いの知識を広め、職員には徹底します。
- ・地域の人たちの参加する行事に対しては、事前・事後清掃や消毒を徹底します。空き缶やペットボトルなどごみの管理・分類が徹底できるように、利用者にポスター等で協力を促していきます。模擬店の企画については、あらかじめ保健所に届出をします。

（３）クリーンキラーA（エース）

ノロウイルス対策として厚労省・保健所から次亜塩素酸ナトリウムを使うように指示されていますが、現場では「目が痛い・のどが痛い・臭い」など作業員や施設利用者の方への負担は大きいものでした。医療の現場や福祉、食の現場に携わる私たちは、この状況を打破すべく、以前より開発していました「次亜塩素酸水」（製品名クリーンキラーA）を本格的に活用しています。濃厚な成分でバイオフィルムを貫通して崩すなど除菌効果が高いにもかかわらず、前述の痛みや臭いなどの負担も少なく、また希釈することで下記のような様々な使い方が出来ることから、「安全・安心」と多くの現場で認められております。当法人の運営する施設では、その施設に合った使用方法で活用しています。遊具の殺菌や、感染症の予防につながっています。



（４）施設の修繕について

設備・備品に破損・劣化がないかを日常的に点検し、不備欠陥があった場合は速やかに修繕します。施設の修繕が必要な場合には、仕様書に基づいて国分寺市と協議の上、危険性と早急性を判断し、必要な場合には速やかに修繕を行います。修繕の施工業者の選定に関しては、複数の業者から見積もり、総合的に判断した上で、選定します。また、施設の維持については、市民の大切な施設であることを認識し、いわゆる善管注意義務を守ります。

経年劣化を予想し、早急性を持たない修繕箇所でも施設利用にいずれ支障をきたす恐れのあるものは、将来予算計画に反映できるよう、早期の修繕箇所報告を行い、継続的な施設管理ができるよう努めます。

(11) 利用者への対応状況（接遇・苦情対応）

*利用者への対応マニュアル・社員教育独自マニュアルの整備（利用者へ平等利用は確保できているか）

1、接遇対応について

私たちは、「児童館・学童保育所」を拠点に、地域の子育ての多様なニーズに応える事業を総合的に展開したいと考えています。この事業を担う職員は、児童館・学童保育所の仕事を通じて様々なニーズや課題を発見し、「子育ての支え合い」の新しい活動や事業を市民と一緒に一步一步作り出していく主体的な役割を担います。そのために、次のことを大切にしたいと考えています。

| | |
|-------------------|-----------------------------|
| (1) 心身共に健康であること | (5) 障がいのある子への支援 |
| (2) 他者の需要と活動支援 | (6) 困難な問題を抱える子どもへの支援 |
| (3) 発達段階の理解と柔軟な対応 | (7) ソーシャルワーカーやコーディネーターとして |
| (4) 個性の尊重と相互の認め合い | (8) 子ども・保護者をめぐる社会情勢に敏感であること |

2、苦情対応について

苦情対応について、現状を正確に把握し、その原因や背景を明らかにします。また苦情は生の声による機会の現れとして捉え、児童館・学童保育所運営のきっかけであり、満足度を高める取り組みにもなります。苦情への適切な対応をすることにより、子ども、保護者、地域からの信頼を構築します。

(1) 情報の正確で的確な伝達

保護者からの苦情の多くは、連絡方法のまずさや行き違いを含む意思疎通の不足によるものです。とりわけ、怪我や病気などに関する適切な対応が求められます。

(2) 事故を起こさないための予防活動

怪我や事故が起きないようにするためには、普段から子どもたちを丁寧に見ながら、一人ひとりの子どもの気分や感情、思いなどを捉え理解していることが大変重要です。また、遊具や施設環境と安全を確保するという点で十分に配慮しながら整えておきます。

(3) 緊急時の対応についての徹底

万が一事故や怪我が発生してしまった場合には、保護者にできるだけ速やかに正確に事実を伝えます。また、保護者の判断を求める場合には、保護者がお迎えに来るまで休ませるのか、職員が最寄りの医療機関へ連れて行くのかなどを確認し、誠意ある態度で対応します。

(4) 職員の研修について

- ・危機管理意識と環境設定について
- ・子ども一人一人の把握と記録
- ・受容と傾聴
- ・緊急時の対応について
- ・保護者に子どもの様子を伝える
- ・苦情申出者の声の正確な記録という点での研修を行う

3、対応マニュアル

(1) 苦情対応体制

① 苦情対応責任者 — 施設責任者

苦情解決の責任主体を明確にします。苦情解決の仕組みの周知や苦情申出人との話し合いによる解決、改善を約束した事項の執行、全体の責任を担います。

② 苦情受付担当者 — 常勤職員

苦情の申し出をし易くするために設置します。苦情は随時、送り迎え時、電話、文書等で受付をします。また受付方、解決・改善までの経過と結果については記録をします。

③ 法人本部窓口

苦情解決に社会性や客観性を確保し、利用者の立場や状況に配慮した適切な対応を図るために設置します。

(2) 苦情対応の手順

① 利用者への周知

苦情対応の考え方と、苦情受付担当者やその仕組みを、利用者にわかりやすく、周知します。施設内への掲示、おたより、リーフレットへの掲載など。

② 苦情の受付

苦情を受けたら、その内容を苦情受付用紙に記録し、内容を複数で確認します。

③ 苦情受付の報告・確認全て、苦情対応責任者へ連絡します。

④ 苦情対応

原因・背景・改善について、職員間で話し合い、解決策、方針を明確にし、当該保護者との話し合いの場をもちます。原則的には、即日対応をおこない、解決をはかります。時間を要する場合でも、1週間以内に、解決するよう、誠意ある対応をこころがけていきます。また、発生と同時に、すみやかに国分寺市担当者に報告します。

⑤ 困難ケースの場合

当事者間の解決が難しい場合、また、判断に迷うケースの場合はすぐに国分寺市担当者に連絡し、指導をいただき、解決を図ります。法人本部や顧問弁護士も入って検討会議を開きます。

⑥ 苦情対応の記録・報告

● 苦情記録を共有

● 苦情申出人に対し、苦情対応の経過と結果を迅速、丁寧にお知らせします。

● 国分寺市に対しても、同様の報告をします。

4、苦情対応をサービス向上の契機に

- (1) 苦情対応のしくみは、利用者が安心して自らサービスを選択できる仕組みとして重要であると考えます。苦情を言うことで、自分の子どもが不利な扱いを受けるのではないかと躊躇したりすることがないように、苦情や要望を大切なものとして受け止める姿勢があることを保護者に伝え、その窓口を設けます。
- (2) 苦情については、その原因や背景を類推し、現状を把握し、対応します。現状の仕事の質を問い直し、高める契機にしていきます。特に、子どもの事故や、けんかの処理、職員の対応に関する苦情は、職員の指導水準が問われる問題として受け止め、原因・背景・どうあったらいいのか、すぐに事例検討を行い、問題の本質と今後の方針を確立し、全職員で共有し、力量の向上に結びます。
- (3) 苦情には誠意を持って迅速に対応します。また、それを契機に保護者や地域の方々と信頼関係を深められるよう、取り組みます。
- (4) 子どもに対する苦情、子ども同士の関係に関わる苦情については、全ての子どもを守ること、そして、教育的見地から子ども自身が失敗から学び、きちんと責任を取り、相手の気持ちを理解する契機になるよう取り組みます。保護者に対しても、全ての子どもたちにとって何が大切か、その立場に立って、一緒に解決して頂くよう、働きかけます。
- (5) 子どもの怪我や事故が起こってしまった時の対応は、発生直後の迅速な対応が大切です。そこに向けた備えをし、全職員での周知徹底を図ります。事実の把握と保護者への十分な説明、原因と改善策の検討と、その後の実践など、本人や保護者の気持ちを考え、相手の立場に立った誠意ある対応を図ります。

(12) 社員等の育成状況

*研修の実施状況等

1、職員の育成・研修に関する考え方

～地域、利用者と協同する職員集団を～

児童館、学童保育所が地域社会の中で目指す役割と、自らがなすべき仕事の本質とは何かを常に深めていく人材を育成します。自らの仕事を狭く限定せず、日々接する子どもたちや保護者、地域の方たちのニーズを受け止め、その必要に応える事業や活動を地域の中で一緒に創造していく職員集団の形成に尽力していきます。そのために下記の6つの力の向上に努めます。

～6つの力の育成～

(1) 人間性と倫理観

子どもの最善の利益を考慮し、人権に配慮した事業運営を行うための基礎となる人間性と倫理観を養う。

(2) 社会観

子ども、家庭、地域をめぐる社会の状況と自らに求められる役割を深めるために、社会認識を深め、視野を地域に広げる。

(3) 専門性

子どもの成長・発達、多様化する家庭（保護者）の支援のための専門性を高める。

(4) 傾聴力

子どもや保護者の思いを受けとめ信頼関係を築き、解決の主体者となることを援助する力を高める。

(5) コーディネート力

地域のニーズをつかみ、地域の方々の力を引き出しつなぐ力を高める。

(6) 危機管理能力

安全管理・危機管理に対する意識の徹底と能力を高める。



2、研修・育成体制

| 目的 | 研修名・会議名 | 内容 |
|----------------|-------------------|---|
| 組織理解 | ①新人研修（3カ月・6カ月・1年） | ・法人理念、歴史、仕組みについての学習会 新人同士意見交流を行う |
| | ②リーダー研修 | ・個人ごとに年間の目標・課題を設定する |
| | ③個別計画研修 | ・他現場の実践を聞き、ノウハウを共有する |
| 業務内容の基本的理解 | ①仕様書、企画提案書の理解研修 | ・仕様書、企画提案書の学習と共有 |
| | ②国分寺市運営方針についての研修 | ・国分寺市の子育て支援分野の施策（いきいき計画）について学ぶ ・児童福祉法や子どもの権利などの学習 |
| | ③児童館・学童保育職員の仕事 | ・子育て支援相談・援助に求められる児童館・学童保育所の役割を学ぶ ・地域の社会資源の把握と児童館・学童保育所のネットワーク作りを学ぶ ・事例検討を通じて、職員同士の連携を図る |
| | ④子どもの成長と発達を理解 | ・子どもや保護者の背景、地域をめぐる社会的状況の理解 |
| 専門性の向上 | ①児童館、学童保育所基礎研修 | ・児童館、学童保育の基本的役割を学ぶ |
| | ②保育力向上研修 | ・遊びの歴史、方法、技術指導について学ぶ（レクリエーション） |
| | ③傾聴力・共感力、相談援助研修 | ・事例検討会を通して子ども、保護者の想いを傾聴する姿勢を作る（ロールプレイ） |
| | ④地域コーディネート能力研修 | ・地域資源を活用し、ネットワークを広げる技術を学ぶ |
| 安全管理・危機管理意識の向上 | ①安全管理・危機管理研修 | ・危機管理体制及び対応の情報共有 |
| | ②苦情対応研修 | ・事例検討を通して苦情対応を学ぶ |
| 自己到達度を知る | ①年間総括 | 評価、自己の振り返り（自己評価シート）を踏まえて、今後の運営に生かす |

(1) 法人全体研修

会議や職員研修をはじめ、法人本部がバックアップし人材育成、法人内研修を行っています。全国組織としての強みを生かし、また子育て事業が多い東京内での会議、研修制度の構築を行い、専門性や総合的な研修作りを行っています。

「保育の実践から 共に育ち、共に学ぶ」教育研究者の大田堯先生のビデオメッセージと各保育現場から持ち寄った事例をもとにエピソード研修を行いました。



(2) 安全・危機管理研修

東京統括本部の危機管理部会を中心に、各事業本部また各現場で危機管理担当を配置し、教育・研修の場を作っています。基本的な安全管理と危機対応を十分に行えるよう、各マニュアルを整備し全職員に周知しています。

(3) 実践研修

日々の保育に活かしていけるよう、実践的な研修を大切にしています。具体的には、各現場で実施した工作や集団遊びのアイデアを持ち寄り、工夫したところや実施する際の注意点を発表し合い、実践に役立つ研修として行っています。

(4) 交換研修

交換研修では、他現場の保育に参加し体験することによって、現場の振り返りができ、良い実践を持ち帰り、職員同士で検討し現場の保育に活かすことができます。話を聞くだけではなく、体で感じる学びを大切にしています。

(5) 日常の中で大切にしていること

①記録の重視（日誌、週報、月のまとめ）

②実践検討会の開催（職場ごとに月1回）

③自己学習・研鑽の努力

④職場会議の充実

昼礼、夕礼等を行い、職員の意思統一、事業の円滑化、子どもの成長を共有します。

- ・行事会議、行事方針、進め方
- ・年間計画、指導方針、運営、反省、指導
- ・苦情、事故、研修報告、避難訓練



研修例【KYT（危険予測トレーニング）研修】

児童館内（玄関や遊戯室）や館外活動（園庭や遠足）などの様子を描いた絵をもとに事故に繋がるような危険箇所を見つけ、事故防止の意識を高め合う研修です。分かりやすい絵を使用するため、利用者である子どもたちとも一緒に危険箇所や危険な行動について考える事が出来る手法です。

(13) 個人情報保護対策状況（情報の管理体制）

① 個人情報の保護

当法人は、多数の職員情報に加えて、事業によって取り扱う利用者情報もますます増加しています。これらの個人情報を適切に扱い、漏洩などの事故を起こさないための方策と取り組みを確立していかなければならないと考えています。当法人は、個人情報を適切に保護し、法人内外の脅威から守ることが社会的責務と考え、次の取り組みを推進します。

- 1、法人としての「個人情報保護規定」（前掲P11 参照）を策定します。
- 2、個人情報保護の重要性について、従業員に対する教育啓蒙活動を実施するほか、個人情報保護の管理責任者を置き、適切な個人情報保護のための方策を策定し、実施、維持、継続的改善に努めます。
- 3、個人情報の収集、利用、提供および預託を行う場合には、業務実態に応じた個人情報の適切な管理に努めます。
- 4、職員は、守秘義務に徹します。雇用契約を結ぶ際に、誓約書を取り交わします。

② 書類等の管理

- 1、個人情報については、所定の保管場所にて施錠を行います。とりわけ指導計画・日誌・個人記録・月報・名簿などの取り扱いと保管については厳重に管理します。
- 2、個人情報の収集、利用、提供および預託を行う場合には、業務実態に応じた個人情報の適切な管理に努めます。
 - ①個人情報を管理するコンピュータを特定し操作する従事者を特定します。
 - ②コンピュータにはIDとパスワードを設定し、アクセスを制限します。
 - ③定期的にパスワードを変更します（半年に1回）。
 - ④ このコンピュータはインターネットの接続を行いません。
- 3、個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざん、漏洩などの予防並びに是正に関する適切な措置を講じます。
- 4、個人情報の書面による管理は極力避け、なるべく人目に触れないように管理します。また書面による管理においても、ファイル等は決められた棚や机にしまい、必ず施錠します。
- 5、個人情報に関する書類やデータは持ち帰ることを禁止し、必ず館内で取り扱います。
- 6、書類やフロッピー、CD等は、シュレッダーに掛け細分化してから廃棄物として処分します。
- 7、施設内であっても個人の名前や個人情報の関わることを見られないように工夫します。

③ 利用者への配慮

- 1、子育て相談については、プライバシーを守り、相談内容に応じて、国分寺市担当者を通して専門機関の紹介等を行います。後日必ずフォローアップを行い、経過を確認していきます。相談内容は「相談記録表」に記載し、保管します。
- 2、事例検討会での個人情報の活用は事前に本人・保護者の了解を得ます。

(14) 自主事業などの提案

* 施設の設置目的に沿って団体が独自に企画し、自己の財源で行う事業

* 自主事業収支計算書（書式任意）を提出してください。

自主事業計画①（児童館）

| | |
|---------------------|--|
| 事業名 | もとまちファミリーDAY |
| 事業目的・内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・父親の育児参加促進、地域における子どもやその保護者の新たな居場所の提供 ・乳幼児親子の利用者数の多さと、父親の育児参加のニーズに応える ・食を通してのコミュニケーションの場の構築 |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 年6回 |
| 参加対象者 | 地域の小中高生、乳幼児、保護者、民生委員、助産師、臨床心理士など。 |
| 参加見込み人数 | 各 100 名程度 |

自主事業計画②（児童館）

| | |
|---------------------|---|
| 事業名 | パパDAY |
| 事業目的・内容 | <p>父親の育児参加促進と、父親同士の交流の機会</p> <p>父親と乳幼児のふれあいを中心とした体操や手遊び、その他のプログラム</p> <p>プログラム終了後、遊戯室などを使つての茶話会につなげ父親同士の交流を図る</p> |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 年4回程度(季節に応じて) |
| 参加対象者 | 乳幼児とその保護者 |
| 参加見込み人数 | 各回 15 組 30 名程度 |

自主事業計画③（児童館）

| | |
|---------------------|---|
| 事業名 | 中高生の日 |
| 事業目的・内容 | <p>中高生の居場所の拡大</p> <p>普段の中高生タイムとは別の形で実施</p> <p>例) 夏：館庭や館内の調理器具を使った調理企画</p> <p>冬：クリスマス会</p> <p>春：バスケットボール大会など</p> |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 年3回 |
| 参加対象者 | 中高生 |
| 参加見込み人数 | 各回 10 人 年間 30 人 |

自主事業計画④（児童館・学童保育所）

| | |
|---------------------|---|
| 事業名 | 児童館・学童保育所合同親子スポーツ大会 |
| 事業目的・内容 | 親子で楽しめるスポーツを提案し、共に楽しめる場とする 児童館と学童保育所の交流の場とする |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 年 1 回 |
| 参加対象者 | 児童館・学童保育所を利用している児童とその保護者 |
| 参加見込み人数 | 30組～50組 |

自主事業計画⑤（児童館）

| | |
|---------------------|--|
| 事業名 | 組織活動 |
| 事業目的・内容 | 異文化体験や野外活動など通して様々な経験を積む 縦割りの活動を通して社会性を育む ボランティア活動などを通して地域に出ていく |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 週 1 回 |
| 参加対象者 | 小学生（低学年） |
| 参加見込み人数 | 30 名程度 |

自主事業計画⑥（学童保育所）

| | |
|---------------------|---------------------------------|
| 事業名 | お弁当の日 |
| 事業目的・内容 | 子どもが自分自身でお弁当作り、保護者への感謝と自己達成感を育む |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 年数回 |
| 参加対象者 | 学童保育所在籍児童 |
| 参加見込み人数 | 登録児童数 |

自主事業計画⑦（学童保育所）

| | |
|---------------------|--|
| 事業名 | 文化施設等での鑑賞・マナー体験会 |
| 事業目的・内容 | 日頃生活を共にしている仲間と文化施設等で劇や映画の鑑賞を行い、また文化施設でのマナーなどを学ぶ機会とする |
| 年間実施回数・ 延べ実施日数など | 1～3回程度 |
| 参加対象者 | 学童保育所在籍児童 |
| 参加見込み人数 | 登録児童数 |

自主事業計画⑧（児童館・学童保育所）

| | |
|-----------------|--|
| 事業名 | 専門講師による体験行事 |
| 事業目的・内容 | 子どもたちの発想や知識を広げられるように工作・科学あそび、むかし遊びなど専門講師を招いて行う体験行事 |
| 年間実施回数・延べ実施日数など | 年1～3回程度 |
| 参加対象者 | 児童館 来館者 学童保育所在籍児童 |
| 参加見込み人数 | 希望者 |

自主事業計画⑨（学童保育所）

| | |
|-----------------|--|
| 事業名 | 卒所生を招いたお楽しみ行事 |
| 事業目的・内容 | 子どもたちが卒所した後どのように過ごしているのかを知る 卒所した4～6年生と遊ぶ機会を持つことで、在籍児童のあこがれや目標を持つ機会とする 卒所生についても久しぶりの仲間や職員と過ごすことで、自分の成長を振り返り楽しむ機会とする |
| 年間実施回数・延べ実施日数など | 年1回程度 |
| 参加対象者 | 学童保育所在籍生、卒所生 |
| 参加見込み人数 | 登録児童数＋卒所児童希望児 |

以上自主事業については市との協議の上、実施いたします。

また、自主事業については5年間の指定管理期間内の各施設のニーズや状況により新たに提案していく物もあります。その際も市への相談・協議を行い実施していきます。

| 事業名 | 収入 | 支出 |
|----------------------------------|-----------|-------------|
| 自主事業① もともちファミリーDAY | 必要に応じて材料費 | 10000円（軽食代） |
| 自主事業② パパDAY | 無料 | 必要に応じて材料費 |
| 自主事業③ 中高生の日 | 無料 | 必要に応じて材料費 |
| 自主事業④ 児童館・学童保育所合同親子 スポーツ大会 | 無料 | 必要に応じて材料費 |
| 自主事業⑤ 組織活動 | 無料 | 必要に応じて材料費 |
| 自主事業⑥ お弁当の日 | 無料 | 材料費 |
| 自主事業⑦ 文化施設等での鑑賞・マナー 体験会 | 入場料と交通費 | 職員分の入場料と交通費 |
| 自主事業⑧ 専門講師による体験行事 | 無料 | 材料費と交通費 |
| 自主事業⑨ 卒所生を招いたお楽しみ行事 | 無料 | 必要に応じて材料費等 |

(15) 障害者の雇用状況

*雇用割合や方針

1、雇用割合

現在、母体であるセンター事業団を含め、様々な業種の仕事をを行っている中で、障がい者の就労を進めています。

【障害者雇用状況報告書】(届出分)

平成 29 年 7 月 26 日現在

身体障がい者 13 人 知的障がい者 2.5 人 精神障がい者 4 人

合計 19.5 人

全体 963 人 (法定雇用障がい者の算定基礎となる労働者数)

実雇用率 2.02%

2、方針

「法定雇用率を守る」という消極的理由ではなく、私たちは障がい者が働くことを通じて、「社会に役に立つ、社会に参加する」「保護される対象から自立する対象へ」など、「働くことを通じての尊厳ある生き方」ができる環境を障がい者とともに作っていきます。

そのような想いから、東京都就労継続支援 A 型・B 型にも取り組みながら就労支援を行っています。一般就労に向けて、法人内で事務作業や、清掃作業、印刷物の作成などを行っています。

また、全国的に障がい児の放課後の居場所である「放課後等デイサービス」を立ち上げています。国分寺市内でも保護者の方たちからのニーズに応えたい思いで「放課後等デイサービス すてっぷ」を立ち上げました。一方で放課後等デイサービスを利用できるのは 0 歳から 18 歳であるため、そのあとの働く場を作っていかなければなりません。そのため、当事者の子どもとその保護者と一緒に就労の場を作る仕事おこしの準備会の立ち上げが各地で進み始めています。



●生活困窮者就労訓練事業●

八王子市(中核市)において平成 28 年 2 月より「八王子認定就労訓練事業」として認定を受けています。八王子市や自立相談支援機関・若者サポートステーション、八王子市内の NPO 団体と連携し、これまで 7 名と面談を行い、就労困難な 4 名の方を介護事業所、食関連事業で「認定就労事業」として受け入れています。



食関連事業の方が非雇用型から雇用型に移行し仕事に対して前向きになり、印象も明るくなりました。

(16) 高齢者の雇用状況

高齢者の雇用割合 (別紙)

【高齢者雇用状況割合】

平成 29 年 8 月 1 日現在

合計 515 人 (65 歳以上の就労者)
法人全体の就労者数 3304 人

実雇用率 16%

(16) 高齢者の雇用状況

*雇用割合や方針

1、考え方

少子高齢化により、労働人口の減少が予測される中、社会を支える担い手として高齢者の知識や経験を生かすことは日本社会にとって必要なことです。高齢者は、長年の様々な経験から豊富な知識が蓄積されており、子育て支援においてはそういった高齢者の存在がとても重要であると考えています。

高齢者就労者の最も大きな不安要素は健康面だと思われがちですが、近年健康的な60代は増えており、むしろ仕事という生きがいを持つことで、社会とつながる良い循環が生まれます。就業意欲も高く、地域への社会貢献を考える高齢者は多く存在します。その点において、私たち法人の理念である地域との協同を理解し、深い価値観のもと働いています。また、働きたい人が働き続けられる生涯現役社会を目指し、年齢に関係なく就労の機会を生み出していきます。

2、就労について

国分寺市で私たちが運営している児童館、学童保育所では、7名(12.3%)の65歳以上の高齢者が働いています。就労については、年齢による採用制限はなく、資格条件を満たし健康的に働ければ、面接や試験を行い就労します。65歳以上の就労者は本人の希望に応じて、話し合いのもと就労継続が可能です。健康維持に関しては十分留意し、本人とともに体調管理を行い、現場の職員と相談しながら、補い合って働いています。



3、子育て現場において

子育て経験のある高齢者の存在は、児童館、学童保育所を利用する保護者に子育て経験を通して安心感を与え、不安解消につながっています。相談を受けたりアドバイスをしたりなど、職員と保護者の日常の深い関わりは少なくありません。特に初めて子育てをする保護者にとっては、気軽に相談できる場所がとても重要で、子育ての孤立を防ぎます。子どもにとっても大きな影響があり、長年かけて培われた高齢者の知識や技術は、人間の生きる力に直結するもので、自立に向かう子どもたちに貴重な体験を与えます。第二の家庭である学童保育所においては、様々な年齢層の職員がいることで、偏りのないバランスのとれた保育が実現します。その意味でも高齢者の果たす役割は大きいと考えます。

若者が社会に出て仕事を通して経験を積む上で、職場にとっても高齢者の存在意義は大きく、働くことの意味を様々な視点で若者に投げかけてくれます。若者にしかできない分や高齢者にしかできない分野を互いに補い合い、認め合いながら協力関係を築いています。

(17) 管理運営に必要な提案金額

*詳細については、別紙収支計算書を参照

(18) 環境への配慮

* | SOなどの取組状況

1、環境に対する配慮

社会的に自然やエネルギー問題に関心が高まる中で、公共の施設である児童館・学童保育所においても、効率的で効果的かつ自然と共生できる活用が求められています。限りある資源を大切に、また市民の共有の財産である施設を守っていくために、工夫した利用法を考えていきます。また、国分寺市は豊かな自然環境が残っており、子どもたちは体で自然にふれあう機会を得ることができます。グリーンカーテンによる節電対策や、子どもたちと共に地域の清掃活動を行ったり、地域の人とともに環境に関する学習会を開催するなど、次世代を担う子どもたちのためにできることに、一つ一つ取り組んでいます。

～子どもたちと清掃活動～

立川市の児童館では、子どもたちと一緒にゴミ運搬車で清掃活動を行う活動「火ばさみ隊」を実施しています。子どもたち楽しみながら行っています。グループを作り、軍手と火ばさみを持って近隣のゴミを集めます。近所のおじいさん、おばあさんから声をかけてもらい、子どもたちも嬉しそうに参加しています。



2、職場での取り組み

| | |
|---------|--------------|
| Reduce | ごみの減量 |
| Reuse | モノの繰り返し使用 |
| Recycle | 資源の再利用 |
| Refuse | ごみになるものを使わない |

- ・コピーやプリントアウトの節約、裏紙の積極的な活用をします。
- ・ごみの分別や持ち帰り、再利用をします。
- ・不必要な照明は消灯し、パソコンはスリープモードにするなど、電気の使用を節約します。
- ・物品の購入は、その必要性を検討し、環境に配慮した製品を購入します。
- ・水を大切に使用するため、節水の表示をします。
- ・近距離の移動は、徒歩・自転車を使用します。
- ・電気・水道・ガスの使用を把握し、節電、節水などに努めます。
- ・省エネルギー型製品を購入します。
- ・児童館・学童保育所でできる省資源・省エネルギーについて話し合いを実践します。
- ・児童館・学童保育所のエアコンは子どもの状況に合わせて室温28℃（夏季）を心がけます。
（ただし猛暑・酷暑日には、必要以上の温度調整はしません）
- ・1日の終業時、電気製品等の電源は冷蔵庫等を除き、コンセントを抜き、節電に努めます。
- ・夏場にはグリーンカーテンに取り組めます。

3、環境教育の推進

農業体験やごみ問題をイベント等と併せて行います。農業等への挑戦を進めます。毎月「経営に関する会議」を設け、話し合いを一人ひとりが経営を考える運営⇒コストカット施設維持にかかる経費の削減価格交渉・修繕の見積もりを取り、自前で直せる場合は改めて検討資源利用について子ども・利用者とともに、環境について考えます。

4、食・農・環境の取り組み

当法人では食・農・環境にも力を入れていきたいと考え、自給・循環する地域を創る取り組みを全国で行っています。具体的には地域の方にも協力をいただき廃油の回収をして当法人の精製プラントにてBDF（バイオディーゼル）燃料にして販売し、再利用をしています。

5、フードバンクの取り組み

当法人ではまだ食べられる食品を活用するフードバンク、フードドライブの活動を推進しています。近年、大量生産大量消費の一方で、6人に1人の子どもが貧困と言われています。野菜なども形が悪いものや売れ残りは捨てられてしまいます。栄養のあるものを少しでも多くの人達が得られるように、食品ロスを防ぐ取り組みを進めています。



6、「こくベジ」について

国分寺市市政戦略課のこくベジワークショップをきっかけに国分寺市の農家の方とつながり、児童館のイベントで国分寺の野菜（こくベジ）を提供しています。児童館での食育活動に協力したいという農家の方と連携し、野菜や果物の収穫を子どもたちが行っています。

地元で出来た野菜を無駄にしないという意識を広める為、皮をあまり剥かずに栄養が残るようにし、ごみも出さない調理法を推進しています。



(19) 地域雇用の状況

*市内の雇用、現状及びこれからの計画

1、市内の雇用について

国分寺市民であることを採用の大きな一つの基準とします。緊急対応にも即座に対応できるよう、国分寺市民の採用を積極的に行っていきます。また、市民でない場合でも国分寺市の歴史や風土などを理解し、子どもたちに伝承していける人材を雇用していきます。

2、現在の雇用状況について

現在、当法人が運営する国分寺市の児童館・学童保育所で就労している職員の内 35 名が国分寺市民となっています。多摩地域では、59 名の国分寺市民が当法人で就労しています。利用する子どもたちや保護者、地域住民とともに、学童保育所を楽しく魅力ある場所になるよう築き上げていく上で、職員の役割が非常に重要です。子どもに向き合う姿勢、学童保育所や子育て支援事業についても研鑽をつむ人材を確保します。また、高齢者・障がいをお持ちの方でも特性を活かし子どもたちの健全育成の為に活躍してくれる人材の採用をしていきます。

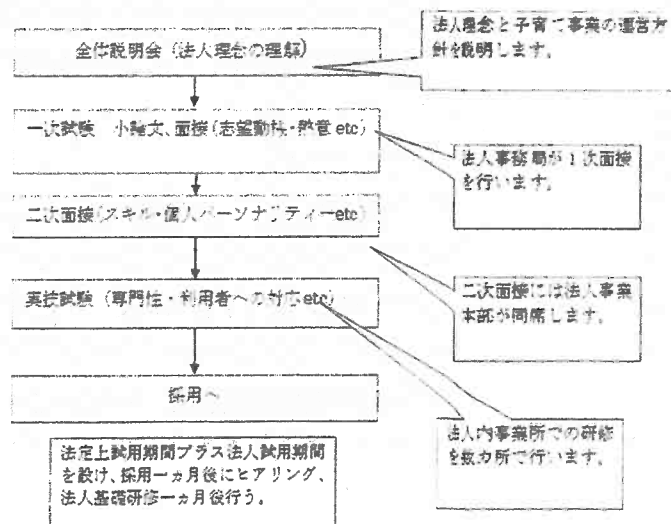
3、採用について

(1) 採用に向けた準備として

- ・法人の理念、運営、事業活動に対する理解
- ・国分寺市子育て・子育ていきいき計画への理解
- ・児童館・学童保育所の役割と機能を理解する意思と能力があるもの

(2) 採用の流れ

- ・1次面接では法人説明を行い、法人への理解を図り、面談で決定します。
- ・2次面接では面接や感想等から子育て事業への理解を図り、面談で決定します。
- ・3次試験では実際に現場で、子どもたちの前で実技試験を行い、専門性や適応力や判断力・子どもへの対応などを見極め、実践力のある「人材」の確保をします。



(20) 災害・防犯時の対応

* 地震等災害が発生した際や不審者等に対する対応マニュアル など

1 災害について

災害（地震、火災、台風等）発生に備え、事前に国分寺市と十分に協議を重ねた上、「消防計画書」を策定し、災害の予防と人命の確保、被害の最小限化に努めます。

さらに、近隣医療機関や消防署、警察署、市自主防災組織との連携を強化し、地域とのコミュニケーションを図ります。その上で、定期的に消防・防災訓練等を実施し、防災に対する意識向上を図り、万が一の災害発生時には迅速かつ適切に行動します。日ごろから、避難場所（いっとき避難場所・広域避難場所等）、避難方法、連絡先を確認し、目に触れるところに書き出して利用者にも周知しておきます。

2 災害時の対応について

災害時には、係を分担し、責任を持って遂行します。自主点検自主検査（日常的に行う検査と定期的に行う検査）チェック表を作成し、それに基づき点検します。また、不備欠陥部分がある場合も、速やかに報告します。管理責任者のもとに「安全管理担当者」と「防災担当者」を配置します。

また、子どもたちを保護者に引き渡すまで、子どもたちを安全に見守ります。

3 防災・減災について

1、避難訓練

様々な場面（火災・地震・不審者など）を想定した避難訓練を定期的を実施します。子どもたちが避難訓練の意味や目的を理解できるように「防災」をテーマに、被災者から話を聞くなどの企画をします。

実施計画をつくり、避難場所、方法、役割、流れを確認します。緊急連絡先（警察、市役所、消防署、保健所、救急病院）を所定の場所に置き、緊急な事態が起きたときに、速やかに活用できるようにします。訓練は、広域避難場所に避難し、名簿による点呼を行い、子どもの安全を確認します。

2、管理体制について

（1）事前に予想されることへの対応を、保護者・利用者、関係者と話し合い、細かく決めておきます。また地域の中で防災対策について連携・協力を図ります。

（2）保護者のお迎えが完了するまで、子どもたちを安全に保護します。

（3）いざという時に冷静な行動ができるよう整理整頓し、非常口付近には固定物を置かないようにします。

（4）緊急連絡簿等は毎朝確認し、災害時にはすぐ持ち出せるようにします。

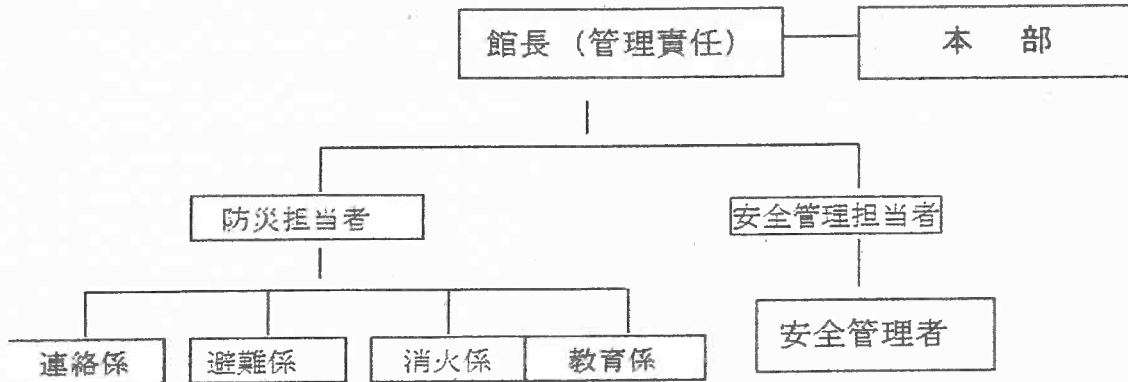
（5）不慮の事故に備え賠償責任保険、傷害保険等に参加し、誠意を持って速やかに事故後の対応を行います。

（6）大きな地震が発生した際に家具や遊具の転倒、転落を防ぐために家具の固定や適切な遊具の配置の検討を日々進めていきます。

（7）国分寺市児童館・学童保育所災害時初期対応マニュアルを活用し、館内研修などで日々理解を深め、災害発生時に備えます。

防災及び安全管理組織図

(事業担当職員にて配置)



| | |
|--------------------|---|
| 防災安全管理責任者 (施設長) | 施設に関する防災及び全体の安全管理に関する把握を行い、適切に指導する。 |
| 防災担当者 | 地震、火事などの際に避難する場所の把握、連絡の統括、消火における対応の指導、災害時の利用者への事前の指導などの企画を実施する。 |
| 連絡班 | 災害時に責任者及び担当者の指導のもと関係団体に連絡、通報する。 |
| 避難班 | 災害時において利用者たちを全員、安全に適切な避難場所迄誘導する。 |
| 消火班 | 災害を最小限に押さえる事を目的に、責任者及び担当者の指導のもと初期消火に努め災害を防ぐ。 |
| 安全管理担当者 | 施設における遊具、教具、建物に関する安全管理の把握をし、改善の指導をする。 |
| 安全管理者 | 施設における安全を点検し、故障の確認及び正しい使い方を利用者に指導する。 |

4 台風・豪雨・豪雪時の対応

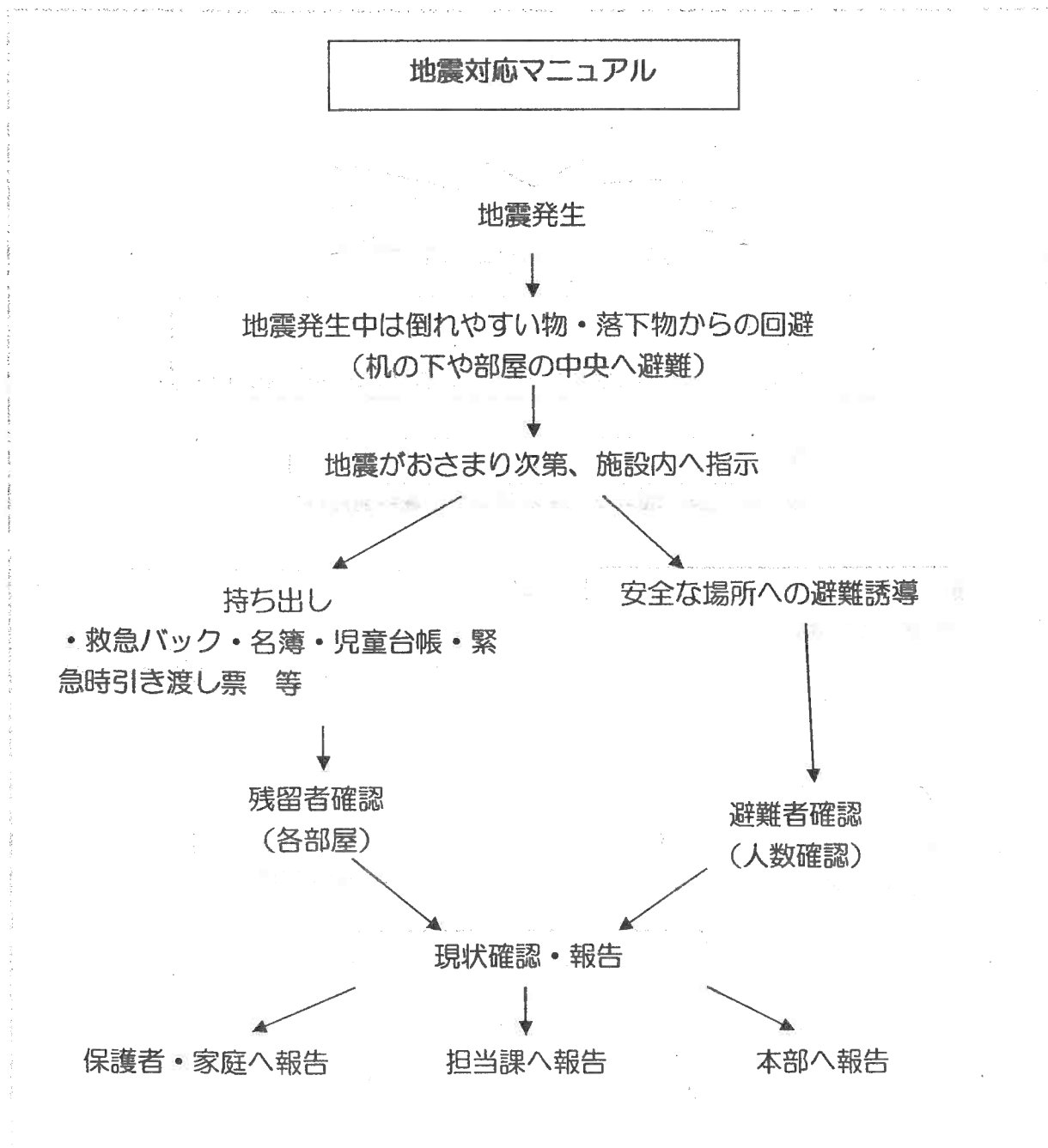
台風・豪雨・豪雪等により、館内の危険や来館、登所・降所の著しい困難が予測される場合は、国分寺市担当者と協議の上、休館や閉館時間の繰上げ、繰下げ等の対応を執ります。学童保育所在籍児童には、緊急時引き渡し票をもとに保護者に連絡をします。子どもの安全確保のため、保護者の送迎をお願いします。一斉下校、時差登校・休校の場合は保育を行います。保護者や家庭に子どもを確実に引き渡すために登録届けの整備、災害対策マニュアルの内容を確かめて、利用者に周知します。

●地域主催の防災シンポジウムに参加●

もとまち地域で行われている、地域会議主催の防災シンポジウムに参加させて頂いています。東日本大震災や阪神淡路大震災を経験された方をお呼びして、震災体験を話して頂いたり、各家庭に配布されている東京防災を元に元町地域の防災ノートなどを作ったり、地域をあげて来る大災害に備えています。その会に私たちも参加し、児童館、学童保育所としての観点や情報を伝え、地域の防災に関する考え方、情報を共有させて頂いております。災害時の小学校の対応なども具体的に聞くことが出来、それらの情報を職員間で共有することで、いざという時のシュミュレーションや備えをより具体的に進めることが出来ています。

5 地震発生時の対応

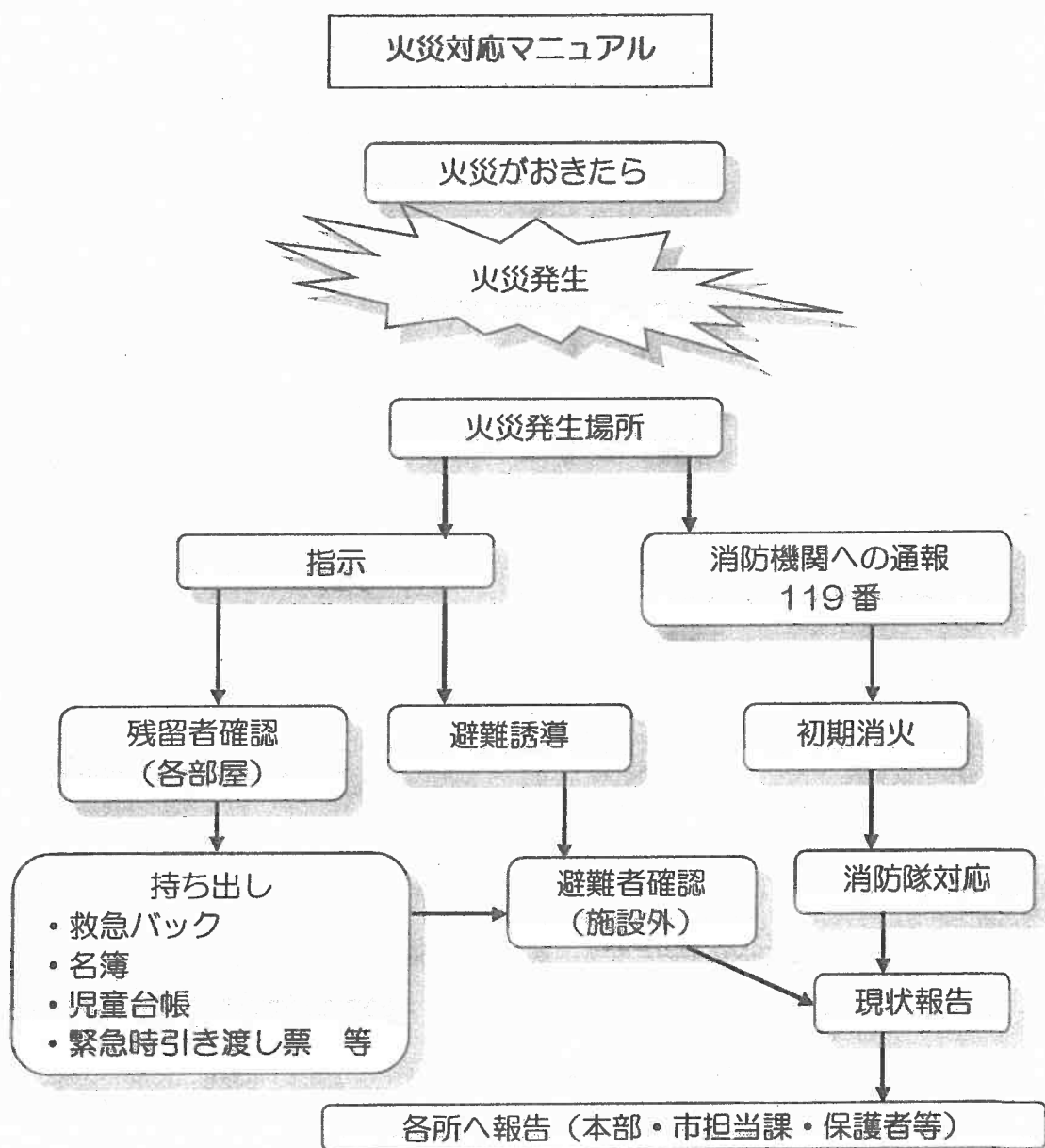
職員は身の安全を確保し、揺れが収まった段階で各部屋の子どもたちの安否を確認し、ガラスや施設内設備の点検を行います。施設が危険な場合は落ち着いて避難誘導します。特にガラス等が割れている場合は、上に物を置くなとして子どもたちが踏まないように配慮します。けが人が出た場合は、応急処置を施し、救急車を要請します。



6 火災への対応

建物や火気の周囲には燃えやすい物を置かないよう管理を徹底します。また、ガス機器・電気器具・換気扇等の定期的な点検・整備・清掃を行うとともに、火災報知器・消火器・自動消火設備は年1回以上点検します。

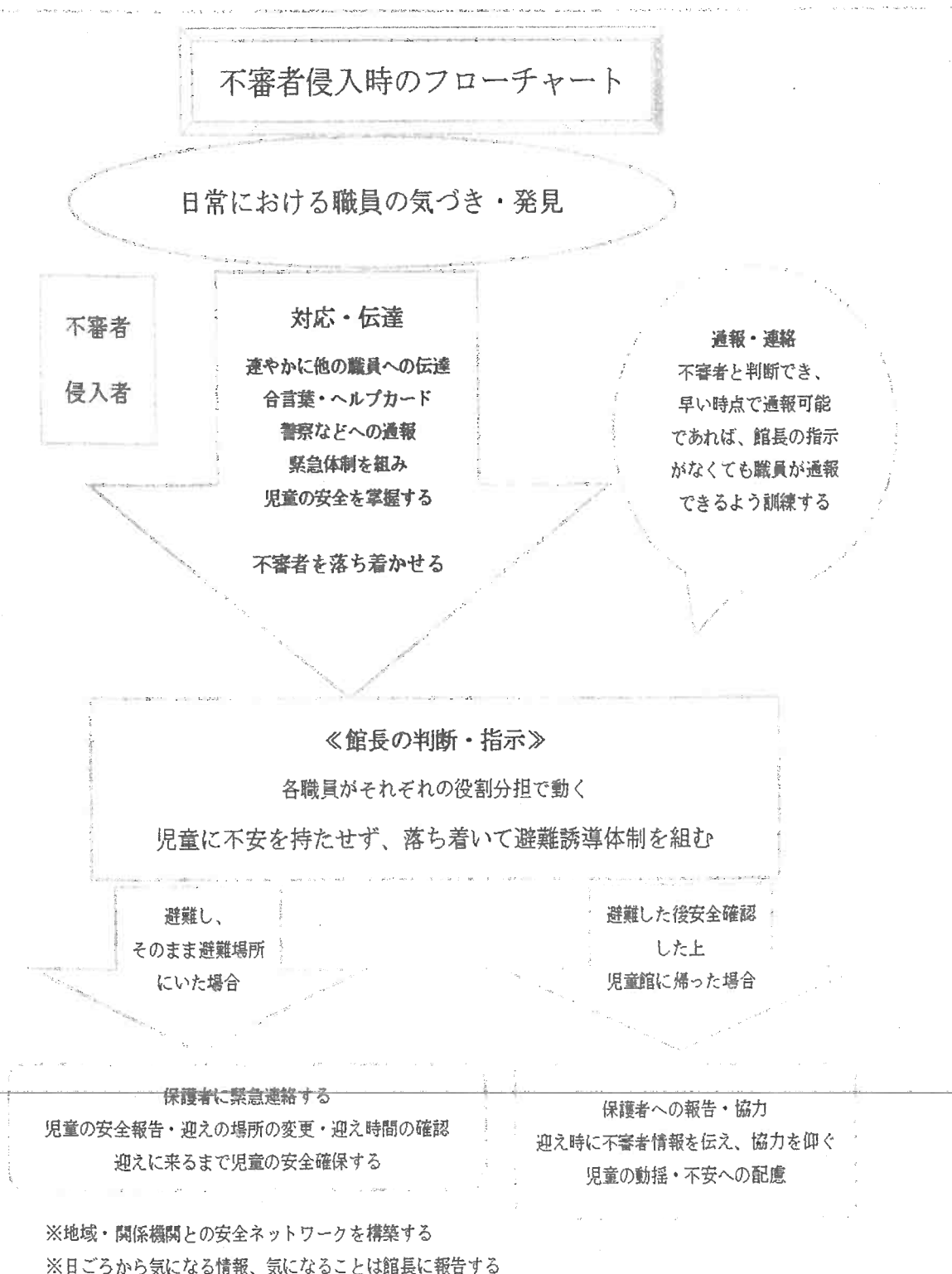
火災発生時は利用者に声掛けや館内放送等を使って火災発生を知らせ、119番通報を行うとともに初期消火にあたります。火災発生時は利用者の安全を第一に、利用者があわてないように落ち着いて誘導します。職員は各部屋を点検し、逃げ遅れた人がいないかを確認します。



7 防犯について

日中及び夜間における施設の管理・防犯体制、職員間の連絡体制を含めた緊急時の対応体制を適切に構築するとともに、防犯訓練、法人内のマニュアルや関連する研修の共有、夜間等における施設などの防犯措置を徹底します。

地域に開かれた施設運営を行うことで、地域住民との連携協力の下、不審者の発見等防犯体制の強化につなげ、地域としての連携体制の強化を図ると同時に、日頃から警察等関係機関とも協力・連絡体制の構築に努め、有事の際には迅速な通報体制を構築します。



(21) 食育について

*食育に留意した対応をしているか、アレルギーなどの個別的対応をしているか
おやつの時間を楽しく過ごせるような配慮があるか など

1、もとまち児童館における食育活動

- (1) 毎月1回「おりょうりしようよ」という料理活動をしています。簡単な調理工程ですが、子どもたちには人気で、待ち時間などを使って、食材に関するクイズをしたり、食品添加物についての学びの時間を設けたりしています
- (2) 年に1回「親子でクッキング」という乳幼児親子対象の料理活動を行なっています。児童館にあるプランターを使って野菜を栽培し、時期が来たら乳幼児親子に収穫してもらい、それを材料に食事を作るといふものです。野菜の水やりなども、あえて親子に依頼することで、普段食べている野菜がどのようにして出来ていくのかを子どもに感じてもらう事がねらいです。
- (3) 毎年新年の行事として「お汁粉会・お雑煮会」を行なっています。子どもたちとその保護者だけではなく、地域の方たちもお招きして、実施しています。多世代交流を図りながら、お汁粉やお雑煮の意味、鏡開きの意味など、日本の伝統的な習わしについても子どもたちに伝える場としています。

●「もとまちファミリーDAY」の開催●

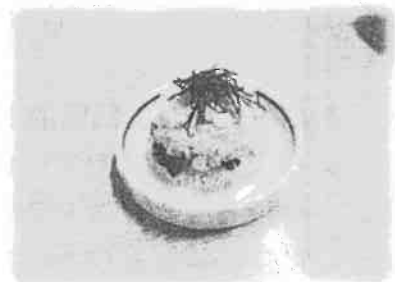
地域における食の提供をテーマに、児童館の活動と地域の皆さんとのつながりを大切にする活動です。食材の一部は地域の農家の方にご協力を頂き、おいしいスープを作り、他にも市内の障がい者施設に依頼し、パンを作って頂き、それらを無料で提供しています。アレルギーについては受付にて詳しい食材の内容を貼りだし、パンには個包装の裏面に原材料を明記して頂いています。

年間で6回開催予定で、毎回メニューが異なり、時季の野菜を使い季節にあった物を提供します。

2、東元町学童保育所における食育

(1) 日頃のおやつ

- ・週1~2回程度季節を感じる果物や手作りおやつを提供します。
- また、子どもと作るおやつ行事も年間2回程度計画・実施しています。
- ・三季休業日には手作り昼食を実施します。子どもたちと一緒に作るものと、職員が作り提供するものを実施します。



(2) 育てる食育

さるかに農園さんとのつながりから、野菜栽培体験を行い、作物を育てる苦労や楽しさ、食への感謝の気持ちを育む機会としています。子どもたちも希望の子を募り、意欲的に手伝ってくれる子もいます。また、収穫したものをおやつで食したり、家庭に持ち帰り、家族と味わってもらったりしています。

(3) 工場見学など生産を学ぶ食育

所外保育等で工場見学などへ行き、日頃、食しているものが、こういった過程を経て作られ、届くのかを学ぶ機会として実施しました。日頃購入して食べる時と違いのある物もあり、見学先で食べた商品の味・食感を忘れず、日々のおやつの際に「工場で食べた食感はまた違った美味しさだったよね」と子どもたちが話す場面もありました。今後も見学先との調整がありますが、子どもたちの新たな体験として実施していきます。

3、食育活動における課題

アレルギーにより使用できる食材が限られているため、メニューに偏りが出ることがあります。児童館では、行事の参加人数が多く、年代も幼児の参加があるなど、年齢層が幅広いので、細かい調理工程を伝えることは出来ず、内容も簡単なものになりがちです。学童保育所では、味の調整など難しく、口に合わない児童も出てしまう事もありました。

自分たちで野菜を育て、その野菜を食べる「食育」も重視していますが、施設により野菜を育てる場所がないので、実施出来ていない施設もあります。また、実施している施設でも、スペースの問題で子どもたちの通らない通路で栽培しているため、子どもたちにとってあまり身近な存在に感じられない場合もあります。

4、発展した食育を

- ・課題で挙げたようにアレルギーのことを考えると、調味料・食材・メニューなど、メニューが限られてきてしまうので、他の児童館や学童保育所などと情報交換の場を設け、各施設の工夫を持ち寄ります。管理栄養士の研修や指導も取り入れます。
- ・児童館として、今年度初めて行ったもともちファミリーDAYを通して児童館を知ってもらった上で、地域の野菜がどのようなものか、地域にどのような食があるのかを伝える場としても、この行事を続けていきたいと考えています。
- ・学童保育所においては、育てる食育として、限られたスペースではありますが、さるかに農園さんのご指導の下施設状況にあった野菜などを考え、栽培しています。また、できるだけ色々な子に体験してもらえように働きかけていき、新しい植物や野菜づくりに挑戦していきます。



5、アレルギーなどの個別的対応について

アレルギー調査や入所前面談で保護者から子どもの状態をよく聞き、把握し、職員に周知徹底を行います。児童館・学童保育所で食べ物を提供する際には、食品表示にアレルゲンがないか複数の職員で確認し、子どもがアレルゲンのあるものを食べないようにおやつの際に職員が入り見守ります。日常的には、ハウスダストなど環境衛生に十分注意を図り子どもたちが来る前には必ず掃除を行います。

(1) アレルギーへの配慮

- ・アレルギー児の対応は、主治医の指示のもと保護者とよく話し合い、食品及びおやつを提供します。
- ・体調の変化や症状など保護者と確認し合い、励まし、改善に向かうよう努力していきます。
- ・職員会議でのアレルギー児の状態・方針など話し合います。
- ・プライバシー・個人情報保護に努めながらも、アレルギーの研修を行い、理解を広げます。

(2) 日常の中でのアレルギーへの十分な対応

①安心の空間

子どもの不安を取り除き、心と体の両面から支援できるようにしておく。生活習慣・ストレスも症状に関係しているので、規則正しい生活や安心できる居場所作りを行ないます。

②楽しい食事・楽しい時間

快適な環境作りを設定し、体調不良や消化能力に留意した栄養バランスで、食の話を取り入れるなどしながら、様々な会話を取り入れ楽しい食事時間とします。子どもが様々なアレルギーによって、制限された活動になっても萎縮しない環境作りを行ないます。

(3) 個別対応

保護者と協力しながら、子ども自身とアレルギーの意味やどの程度食べられるのか、健康状態に応じた摂取など、アレルギーとの関わり方を十分に理解できるよう、一緒に取り組んでいきます。

(4) 食後の観察

食物を摂取した状況を把握し、子どもたちの食後の様子に十分留意します。症状出現時間の変化も見逃さず、丁寧な見守りを行ないます。食後の運動や、過激な動きに注意し、子どもの変化に気づくことを大切にします。

(5) 周囲の子どもの理解

アレルギーは命にかかわる大切なこと、症状が様々な現れてくることなどを周りの子どもたちと十分に共に理解し、食物アレルギーのほか様々なアレルギーに対して、学び支える関係作りを行ないます。

6、おやつの時間を楽しく過ごすために

- (1) 友だちと楽しい雰囲気食べることを大切にします。
- (2) 子どもからのリクエストや選べるおやつを実施し、楽しい時間を一緒に作れるように配慮します。
- (3) 食品添加物に注意し、当法人の管理栄養士とも相談して、安全な食品を選びます。
- (4) 子どもたちも一緒に、手作りおやつに取り組む日を設けます。
- (5) 食物アレルギーに配慮した個別対応も必要に応じて行います。
- (6) 食育をテーマに自分たちで育てた野菜を自分たちで収穫して食べます。

その中で子どもたち自身が野菜の育つ課程や食べ物の大切さを伝える機会を作ります。

- (7) 食べるだけでなく、食前の手洗いや準備、食事のマナー、自分で使った食器の片付けなど生活に必要な事を学べるようにします。



(22) 児童への対応と子どもの権利の尊重について

*子どもの権利の尊重に努めているか、要保護児童への対応が十分にされているか、児童に
関しての情報を共有し、考察する仕組みが職員間にあるか、子どもにとって楽しく快適な運
営、保育が実施されているか など

1. 子どもの権利の尊重について

小学校に就学している児童で、その保護者が労働等により昼間家庭にいない子どもに対して、家庭、地域等の連携の下、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立を図れるようにします。

利用者である子どもの性別、国籍、障がい、信条または社会的身分によって差別的な扱いを決して行わず、人権に十分配慮するとともに、一人一人の人格を尊重し誰もが生まれながらにして持っている人間として幸せに生きていくための権利と子どもに影響のある事柄に関して子どもが意見を述べ、参加することを保障していきます。

(1) 児童館

①子どもの居場所作りの充実

子どもにとっての「放課後」の意味は自分で色々なことを発見・理解していく時間、自立に向けて生活の知恵や技術を身につけていく時間、社会性やコミュニケーション能力を養う時間です。

子どもが安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境を整え、安全面に配慮しながら子どもが自ら危険を回避できるようにしていくとともに、子どもの発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるように、自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等により子どもの健全な生活の場を常に提供していきたいと思います。

●学校に行かず児童館に来館していた A 君●

A 君は高学年で、児童館に頻繁に来館し、その度に何かと問題行動を起こし、職員から注意を受け、それに対して反抗していました。一時期、学校にも登校せず、家にも様々な事情から居場所がなく、昼間から児童館に来館することがありました。児童館では遊べないことを伝え、帰宅するように促すと A 君から「ここもだめなのかよ」と悲しそうな表情で館を出ていきました。あまりにもいつもの表情と違ったことを心配した職員が後を追ひ、家庭や学校に連絡することを条件に受け入れました。

その後も A 君の来館は続いたのですが、保護者や学校、民生委員、子ども家庭支援センターと頻繁に連絡を取り合い、A 君の見守り体制を整えていきました。特別扱いをするのではなく、児童館が A 君の居場所でありたいと職員全員が考え、時に厳しく、時に優しく接していったことで少しずつ A 君も落ち着き、最後には児童館を引っ張るような存在になっていきました。そんな A 君も卒業を迎え、その報告や、進学の報告をしにわざわざ来館したり、家のことや学校のことを相談してくれたり、職員との信頼関係も厚いものになりました。

②協調性・自主性を学ぶ取り組み

子どもたちは日々心も体も成長していきます。一日一日が積み重ねであり、その後の成長や発達を左右します。友だちとの関わりの中でお互いを受け入れ、自分を主張し表現できる環境が必要です。子ども自身が考え、工夫し、過ごしやすい空間を作るために様々な体験ができる場を設けます。このような体験を通し、協調性、自主性、社会性を学んでいきます。

(2) 学童保育所

①子どもにとっての楽しい学童保育所を

全児童対策事業が全国的に広がりを見せる中、学童保育所は時代にあった運営を迫られています。そのような状況の中で、私たちは利用者のニーズに耳を傾け、子どもたちがより楽しく、いきいきと学童保育所で過ごせるような環境整備と育成指導の充実を心がけていきます。特に1年～3年までの異年齢集団の形成が学童保育所の魅力のひとつです。快適な保育を進めていくための大きな柱は、「子ども自身の中に潜在する主体性の発揮」と「それを引き出す周囲の人々の連携」と考え、進めていきます。

②日常生活や集団遊びなどを通して仲間作りを学ぶ取り組み

異年齢集団という特徴を持つ学童保育所において、上級生や下級生同士の交流を増やすために、班で活動する行事や遊びを多く取り入れていきます。また、学童保育所生活の中で困ったことがある時に、相談し合える関係や子ども同士で解決していこうとする力を育んでいきます。

2、障がい児対応について

子どもたちの自立を促進するとともに居場所作りを推進し、生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進を促し、他の児童との集団生活に適應していくための専門的な支援その他の便宜を供与していきます。一人ひとりの症状や様子も多様です。実際の子どもの様子をよく観察した上で状況をつかみ、方針を立てて障がいのある子どもたちとともに学び合い、成長していけるように支援していきます。

(1) 学校との情報共有

障がいのある子どもを受け入れるときに、子どもの学校での様子や授業などを見学します。学校や特別支援学級の担任の先生からも、一人ひとりの子どもに必要な配慮や環境、発達上の課題を伺い、保育の参考としていきます。また月のお便りや年間行事予定などを学校と交換し合い、情報の共有化に努めます。

(2) 集団生活の中での成長

周囲の刺激を少なくして、必要なものが目に入りやすくなるような環境を整理し、注意すべき事柄は視覚的に絵や文字で提示していきます。興奮してしまった時はクールダウン（その場を離れ、一人で気持ちを鎮める）できる環境を確保し、落ち着いた時点で本人の気持ちを聞き、原因を考え、状況の理解を共有し本人が少しずつ自信を持てるように些細なことでも、良いことは励ましていく環境作りを心掛けていきます。健常児とのより良い関係が育まれるように、子どもたちの関係を大切にしていきます。健常児と障がい児が同じ班活動や遊びに取り組み、子ども同士の集団やその関係性の中でお互いが学び、育ち合う取り組みを大切にします。

(3) 関係機関との連携

関係機関や専門機関、学校との連携を密にして事態の変化に対応していきます。日々成長する障がい児を丁寧に見ていくことで、些細な変化を見逃さないようにします。必要に応じて、国分寺市や専門機関、学校や関係者と連絡を取り合って、迅速かつ根気よく対応をしていきます。

(4) 保護者との信頼関係作り

保護者との連絡や話し合いを密にして気軽に相談できる関係を作っていきます。障がいのある子どもを常に中心に考えた上で日々の連絡を重視し、お互いの関係を作り、深めていきたいと思います。その関係を構築していく中で保護者の方たちの不安や悩みを真摯に受け止め、お互いに考えたり悩んだりすることで問題に対して共感を持ちながら進めていきたいと思います。

●個人面談●

障がいのあるお子さんのご家庭とは、必要に応じて保護者との個人面談を実施しています。日頃伝えきれない子どもの成長や、課題を達成できた時の話し、また子育て・子どもとの関わり方の good ケース・bad ケースなど、ゆっくり時間を設けて話す事で、保護者と職員が同じ方向性を描きながら子どもの更なる成長支援を見出す機会となっています。今後の支援情報共有がねらいのひとつではありますが、保護者の方の不安や悩みに少しでも寄り添い、一緒に子どものことを考える場でありたいと考えています。共に笑い、共に涙する関係構築を目指していきます。

(5) 児童館として

小学生以上の障がい児だけではなく、障がいを持った乳幼児の来館も時折見られます。対応は障がいの種類や子どもの持つ特性によって変わってきますが、芯になる部分を療育の専門家や医療関係者、当事者から学び、知識や対応を共有し、保護者やその子どもが、少しでも楽しい場所、安心できる場所、そして少しでも不安を吐き出せるような場にしていきます。

(6) 研修について

専門性の高い職員であるために研修を重視します。障がいのある子どもの特性を正しく捉えるために、基本的な学習を行うことと、子どもを取り巻く法律や制度の変化に対応できるようにし、積極的に研修や学習会等に参加し、内部の会議等での事例検討や学習会を開催します。

3、要保護児童の対応について

全国の児童虐待相談の件数は増加し、死亡件数についても高い水準で推移しています。児童館・学童保育所を担う私たちは、日々子どもに接する中で最も子どもの変化に気づくことが出来る場所にいます。虐待児童の早期発見と報告、その対応は、私たちの重要な役割のひとつと考えています。

(1) 児童虐待についての理解を深めること

児童虐待がどのようなものであるかを、研修や学習会を通じて理解するように努め、全ての職員が児童虐待について正しい認識を共通理解として子どもへの対応に臨みます。児童虐待が、様々な環境的要因によって発生しやすくなる点から、環境面という視点からも子どもを理解するようにします。

(2) 「気づき」を大切にすること

日々のミーティングや話し合いを通じて、子どもの様子を話し合う中での職員の「気づき」を大切にします。気になる子どもについては継続的に記録を取り、様子の変化をよく見て対応に生かします。チェックシートなども活用しますが、その結果によって判断するようなことはせず、あくまで客観的な資料のひとつとして参考にします。

(3) 虐待を発見した場合の対応について

明らかに子どもの安全が脅かされ、場合によって生命に危険が及ぶ危険性がある場合には、各責任者から国分寺市に速やかに連絡し、早急な対応が取れるよう連携します。虐待の可能性が疑われるようなときにも国分寺市、他の関係機関に連絡をし、子どもの命を最優先に考えます。

「情報提供」「援助要請」「通告」という判断によって行なわれていることを理解し、国分寺市への報告及び対応の相談を密にしながら、適切な対応を心がけます。

(4) 虐待を受けている子どもへの対応について

虐待を受けている子どもは、多くの場合自尊感情が低くなっています。そのことを考えて、傾聴する姿勢を大切にします。場合によっては、大人全般に対して不信感を抱いている場合もあるので、職員が共感しながら見守りや精神的な支援をします。

(5) 法人内の虐待防止委員会の取り組み

当法人では虐待防止委員会を立ち上げ子どもへの虐待等の禁止と予防に取り組んでいます。児童虐待により子どもの心身の成長及び人格形成に重大な影響を与え、次の世代に引き継がれるおそれもあり、子どもに対する最も重大な権利侵害と考えます。身体的虐待、性的虐待、ネグレスト、心理的虐待等、早期発見に努め、発見次第速やかに通告をしていきます。

4、児童に関しての情報共有と考察について

常に保護者及び地域社会に対して密接な連携と交流を図り、子どもの様子を日常的に保護者に伝え、情報を共有することにより、保護者が安心して子どもを育て、子育てと仕事等を両立できるように支援をしています。

(1) 保護者とのつながりを深める取組み

児童館主催の親子行事だけでなく、学童保育所との合同親子行事などを通じて、子どもや保護者とのつながりを深めていきます。また学童保育所としては連絡帳・学童保育所だより・保護者会・個人面談などを通して情報共有や方針の伝達を行い、保護者と一緒に子どもたちを見守っています。

(2) 学校・関係機関とのつながりを深める取組み

学校・子ども家庭支援センター・児童相談所と連携し、子どもたちの家庭環境・様子を知る事によって、日々の保育に活かしていくことができます。また、こちらからの情報も必要に応じて提供しご相談する事で、子どもたちをより多くの目で見守っていきます。また、近隣の施設とも日常的に情報を交換し合い、子どもたちを地域一帯で見守るネットワークを築きます。

●学校との連携●

学校から学童保育所に下校してくる際に、どうしても、家庭に帰りたくなってしまう児童がいました。保護者との連携はもちろん取りながら、学童保育所職員として学校昇降口まで迎えに出て、受入れを行うなど工夫をしています。児童の思いを聴きとりながら、必要に応じて、学校の担任の先生や校長先生・副校長先生などたくさんの教職員の方々からアドバイスや学校での児童の様子をうかがう事で、学童保育所での児童との関わり方も変化しスムーズに過ごせることも増えていきました。また、子ども家庭センターなどからご連絡いただき、在籍している児童が元気に生活を送っているかを共有することもあります。今後も守秘義務を遵守し、けれども子どもの命と健やかな成長を守るために、学校・関係機関との共有・連携をしていきます。

(3) 交流を図る取組み

高齢者の活動グループや町会・自治会、NPOの皆さんと手をつなぎ、多世代交流にも取り組みます。また地域の温かな家族的つながりの中で、子どもたちの自然な情操の成長発達を促す機会を広げます。

(4) 日々のミーティングの重視

毎日のミーティングは欠かさず行い、常勤、非常勤に関わらず全職員が子どもたちの様子を把握し、情報交換し、前日来ていなかった職員も前日のことがよく分かるようにしています。ミーティングのできない一日保育の日も引継ぎノートなどで、情報共有をし、全員が同じ視点に立って保育を行うよう努めています。

(23) 市が行っている関係事業及び地域との連携について

*「放課後子どもプラン」や「学校キャンプ」,「子どもまつり」など,市が行っている関係事業及び地域との連携に関して,どのような提案ができるか など

1、国分寺市が行っている関係事業との連携

国分寺市が行っている事業に関しては、その準備会議や定期的な会議から参加し、当日も参加させて頂いています。

(1) 放課後子どもプランについて

学童保育所として、地域の中で安全で安心な子どもたちの居場所の1つとして小学校で開催されている「放課後子どもプラン」に積極的に参加しています。今後も校庭や学校施設を利用して、子どもたちが自由に楽しく遊べるよう協力します。安全管理委員の方々と協力して、子どもたちが安全に楽しめるよう努めます。

●放課後子どもプランとの連携●

国分寺第一小学校のPTAの方や市放課後子どもプラン担当職員の方と日頃からお話し・相談させて頂き、良好な関係を築いていくよう努めています。

毎日の校庭管理委員を引き受けて下さっている保護者の方ともご挨拶など交わしていく中から、学童保育所の職員の顔を覚えて頂き具体的な校庭使用の相談などできる関係に深まっています。

学童保育所の子どもたちは、校庭開放やサッカー教室、あそびのひろばなど、多様なプランに参加して楽しい放課後を過ごしています。また、遊び場の一つとして教室解放も定着しており、4年生以降の居場所の一つとして考えている児童もいます。



(2) 学校キャンプについて

小学校で開催される学校キャンプに参加し、協力します。学校の先生や、保護者の方々、地域の方々と協力して、子どもたちが夏休みに友達との楽しいひとときを過ごせるよう支援します。もとまち児童館・東元町学童保育所においても、「学校キャンプ」の運営に関わっていきます。

●学校キャンプ●

毎年夏休みが近づいてくると、子どもたちから学校キャンプの話題が聞こえてきます。普段通っている学校に泊まるということで子どもたちもとても楽しみにしています。児童館、学童保育所の職員もスタッフとして参加しますが、日頃を知っている大人が傍にすることでキャンプ参加に緊張している子も安心感を少し持って臨める子もいます。また、学童保育所卒後の児童の参加もあり成長を感じ、更なる体験支援を行える機会となっています。今年は職員誰がキャンプ参加するの?との関心をもってくれている児童もいて、我々職員も嬉しい限りです。



(3) 児童館キャンプ

児童館合同キャンプや子どもまつりについても参加し、協力していきたいと思います。自然の中で、子どもたちがそれぞれ主役になって楽しめるよう連携していきます。

●児童館合同キャンプ●

初めて参加する6年生男子のグループと、初めてその子どもたちと会う職員が同じ班になり、2泊3日のキャンプを共にしました。初めはお互いに緊張しながら、照れながらのやり取りだったのが、時間が経つにつれて次第に打ち解け、笑いが絶えない班になっていきました。無事にキャンプは終了し、それぞれが日常に戻ってからしばらくして、その児童館職員が国分寺まつりに児童館ブースとして参加した際にその子どもたちと再会しました。子どもたちも職員も久しぶりの再会に大喜びしました。2泊3日という短い時間でも寝食を共にすることで築かれる信頼関係があるのだと改めて気づかされました。

(4) 子どもまつりとの連携

中央地区育成委員会主催の子どもまつりに準備会から参加し、児童館ブースを担当しています。近年は、コマ遊びやけん玉などの昔遊びや一輪車コーナーを設けています。児童館や学童保育所を利用している子どもたちがたくさん遊びにきています。

(5) 公民館との共催行事について

公民館、図書館とはもとまち地域会議を通じて交流を深め、良好な関係を築いて行っています。特に「ふれあいまつり・もとまち」において、共催という形で連携させて頂いています。準備会から実行委員会まで一緒に何度も話し合いを重ねて当日を迎えています。公民館や地域の方たちのご協力もあり、児童館の参加者は毎年増え、昨年度は2日間で1000人を超える方たちに来館して頂きました。他にも図書館主催の行事ですが読み聞かせ会や映写会を公民館内で行っているため、子どもたちと一緒に楽しませて頂いています。

(6) おもちゃ病院について

2ヶ月に一度、ボランティアの方に来ていただき、壊れたおもちゃを修理して頂いています。どんなに古い物でも丁寧に治して頂けるので、お孫さんのおもちゃを、おじいちゃんやおばあちゃんが持ってきたり、一見治すのが難しそうなおもちゃも治してもらったりしています。幅広い年齢層の方が利用し、治ったおもちゃを受け取って喜んでいきます。また、夏休みなどは、学童保育所の子どもや児童館の子どもたちが、先生がおもちゃを修理する様子を見て感動する場面もありました。

2、地域との連携についての提案

(1) さわやか夏祭りの共催

毎年夏休みに、近隣の高齢者施設と共催でさわやか夏祭りを行なっています。児童館からはお祭りのオープニングに幼児さんによる仮装行列を行ない、お隣の施設まで練り歩き、その場で地域の方たちと交流しています。中には子どもたちのためにと、手作りのプレゼントを全員に渡してくれたり、お菓子をプレゼントしてくれたり、よい交流の場になっています。他にも地域の方から子ども神輿をやって欲しいを要望があり、子どもたちから参加者を募りました。当日は作って頂いた御神輿を担ぎ、喜んで頂きました。自分たちでより良いお祭りにしていくのはもちろんのことですが、地域の方たちの声を実現できるように創意工夫をしています。



(2) もとまちファミリー運動会への参加

もとまち地域会議主催の「もとまちファミリー運動会」にも児童館・学童保育所として参加させてもらっています。運動会の競技を1つ担当させてもらい、子どもたちや地域の方たちに楽しんで頂けるように企画、運営しています。



(3) もとまちファミリーDAYの開催

もとまち児童館で開催している「もとまちファミリーDAY」は、地域の子育て世代の方たちに対して、児童館が国分寺助産師会や、臨床心理士、民生委員、主任児童委員、子ども家庭支援センターという幅広い専門分野の方たちと繋がっていることをPRするねらいもあります。子育ての不安や、発達の心配ごとなどを専門機関に出向いて相談することは、人によってはとてもハードルの高いことです。児童館が、地域にいる専門家と連携していることで、保護者が少しでも安心できる「居場所」になればと思っています。

(4) 多世代交流事業

定年後の生きがいとして「子どもの育ちを応援したい」という方の特技を活かして児童館・学童保育所のボランティア先生となってもらいます。遊びを通して児童館・学童保育所の事業に関わって下さるよう、高齢者のサークルや団体・施設に呼びかけます。地域の中で「子どもたちの成長を見守り、育むこと」にあらゆる世代の人たちが関わり、その力を発揮できるように取り組みます。また、児童館・学童保育所に高齢者の方が来館することによって温かい目で、子どもたちを見守って下さっています。

市の防災課が行っているカエルキャラバンでは、地域の防災委員や民生委員の方が活動のことを丁寧に教えて下さるだけでなく、地域の方に子どもたちの顔を覚えて頂き、よい交流となりました。

●さわやかプラザ 異世代交流●

学童保育所の環境では沢山の子どもたちと調理を行う事が難しく、毎年夏休みにさわやかプラザにて子どもたちと作る手作り昼食とレクリエーション体験の機会を企画させて頂いています。さわやかプラザをご利用の地域の皆さんや民生委員の方々と一緒に食事作りをして、出来上がったものを一緒に食し、その後囲碁将棋などを教えて頂いたり学童保育所で楽しんでいるトランプやカードゲームおもちゃと一緒に楽しんだり、映写機材を使用させて頂きアニメ上映を楽しむ等させて頂いています。子どもたちも普段関わりが少ない異世代の方との交流を楽しんでいます。

(5) ボランティア・インターンシップの受け入れ

国分寺市では、地域のボランティアの方が放課後子どもプランの担い手になるなど、地域の力が子どもたちの周りで発揮されています。その方向性を大切に、地域の中で特技を持つ方、若者、元気な高齢者の方に、児童館・学童保育所の特別ゲストとして関わってもらいます。国分寺市で私たちが運営している児童館・学童保育所においても、保育に関心のある学生のボランティアを受け入れています。また、高校生の奉仕活動（授業）や中学生の職場体験活動の受け入れも対象となる学校や国分寺市とよく協議の上、実施していきたいと考えています。

(6) 学校、民生委員・児童委員、子ども家庭支援センター、児童相談所との情報共有

虐待やいじめ、不登校等の子どもが抱える問題に、子どもの生活を支える児童館・学童保育所だからこそ気づくことがあります。学校や他関係機関と連携をしながら、解決に向けて子どもを支えていきます。子育てに対して不安や悩みを抱える保護者の相談や、虐待または虐待の疑いのある子どもを発見した際には、速やかに関係機関へつないでいきます。関係機関の方に児童館・学童保育所の行事などにも参加して頂き、定期的に懇談する機会等を作っていくよう努めます。また、学校行事の見学や公開授業など子どもたちの学校生活を知り、育成に活かします。

●関係機関との連携●

国分寺市では、円卓会議や地域福祉推進協議会など、行政と市民が手を取り合い、子どもたちや、子育て中の人たちを取り巻く環境をより良いものしていくための会議があります。子どもたち一人ひとりが抱える背景や子どもの居場所、孤独になりがちな保護者の立場になって地域全体で解決していくとしています。私たちは児童館や学童を運営する中で、子どもたち・保護者の具体的なニーズをキャッチし、そのような会議で議論していくことを大切にしています。